

**医療介護総合確保促進法に基づく
令和4年度 岐阜県計画**

**令和5年1月
岐阜県**

3. 計画に基づき実施する事業

- 事業区分 1-1 : 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業
- 事業区分 1-2 : 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業
- 事業区分 2 : 居宅等における医療の提供に関する事業
- 事業区分 4 : 医療従事者の確保に関する事業
- 事業区分 6 : 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業

(1) 事業の内容等

I 病床機能の分化・連携の推進

事業の区分	I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業			標準事業例	5	
事業名	No	1	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,545,269千円	
	医療機関統合再編施設整備費補助金					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	医療機関(病院)					
事業の期間	令和4年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療構想の実現に向けて、将来の医療需要を見据えた医療機能の再編を促していくには、医療機関における統合や再編に係る施設整備費を支援する必要がある。					
	アウトカム指標	回復期病床の増床数 3,600床(令和7年度)				
事業の内容	地域医療構想の実現に向けた病院再編統合に係る施設設備整備に対して補助を行う。					
アウトプット指標	病院の再編統合 2件(令和7年度) 令和3～5年度: 1病院 令和5～6年度: 1病院					
アウトカムとアウトプットの関連	病床機能の転換及び病床規模の適正化を促進し、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築を図る。					
地域医療構想の関係性及びスケジュール(注1)						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 2,545,269	基金充当額 (国費)	公	(千円) 850,422
		基 国(A)	(千円) 850,422	における 公民の別		

		都道府県 (B)	(千円) 425,211	(注2)	民	(千円) 0
		計(A+B)	(千円) 1,275,633			うち受託事業等 (再掲)(注3)
		その他(C)	(千円) 1,269,636			(千円) 0
備考(注4)	<p>【事業全体】 総額 2,849,274 千円基金充当予定（うち病院内保育所分 4,955 千円） R3 年度事業 0 円 R4 年度事業 2,003,567 千円（うち病院内保育所分 3,567 千円） R5 年度事業 845,707 千円（うち病院内保育所分 1,388 千円）</p> <p>【R4 基金活用分】 R4 年度 1,275,633 千円（うち病院内保育所分 3,567 千円）</p> <p>【その他財源分】 R4 年度事業：H27 年度基金造成分 727,934 千円（R4 年充当予定） R5 年度事業：〈計画〉 R5 年度基金造成分 845,707 千円（R5 年充当予定）（うち病院内保育所分 1,388 千円）</p>					

事業の区分	I-2 地域医療構想の達成に向けた病床数又は病床の機能の変更に関する事業				標準事業例	
事業名	No	2	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 165,072 千円	
	単独支援給付金支給事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	医療機関					
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	地域における質の高い医療を確保し、病状に応じた適切な医療を効果的、効率的に提供するため、病床機能の再編が必要である。					
	アウトカム指標	高度急性期、急性期および慢性期病床削減数 125 床				
事業の内容	地域医療構想に即した病床機能再編を実施する場合、減少する病床数に応じた給付金を支給することにより、地域医療構想の実現に向けた取組を支援する。					
アウトプット指標	3 病院					
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療構想に即した病床機能再編を実施する病院を支援することにより、病床数の適正化を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B)		(千円) 165,072	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円) 63,840
		基金	国 (A)	(千円) 165,072		民 (千円) 101,232
		その他 (B)		(千円) 0		
備考 (注2)	R4 年度 122,208 千円、R5 年度 42,864 千円					

II 在宅医療・介護体制の充実

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	9			
事業名	No	3	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 600千円				
	在宅医療連携推進会議運営事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	在宅医療の推進を効果的に実施するためには、地域の在宅医療・介護の実情を正確に把握した上で、その地域の実情や課題に応じた施策を実施する必要がある。								
	アウトカム指標	訪問診療を実施する医療機関数 479 (H29年) → 571 (R4年)							
事業の内容	<p>関係者事業者団体を構成員とした会議を開催し、県の施策の実施にあたっての意見交換、目標に対して県の事業が効果的に行われているかの検証、効果的に事業を実施するための方策についての検討を行う。</p> <p>○在宅医療連携推進会議部会（県単位） 構成員：医療・介護関係団体（11団体）、市町村代表（1市） 他有識者2名</p> <p>○圏域別研究会（5圏域） 構成員：市町村行政、地域医師会等医療・介護関係団体</p>								
アウトプット指標	会議・研究会の開催数 3回								
アウトカムとアウトプットの関連	地域における在宅医療・介護の関係者が一堂に会する会議・研究会を通じることで、地域に応じた在宅医療・介護事業の推進が図られる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
				600			400		
		基金	国(A)			(千円)		民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)			0
			計(A+B)			(千円)			
その他(C)		(千円)	0		(千円)	0			
備考(注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	22			
事業名	No	4	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,572千円				
	かかりつけ薬剤師・薬局在宅医療体制整備事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県（岐阜県薬剤師会）								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進行により介護・療養を必要とする県民は増加すると考えられ、その受け皿として在宅医療の提供体制の構築・強化が必要となっており、薬局薬剤師が地域包括ケアシステムの一員として在宅医療に主体的に取り組むことが求められている。								
	アウトカム指標	在宅患者調剤加算届出薬局数 88薬局（平成26年8月1日現在）→300薬局（令和4年度）							
事業の内容	<p>次の研修を実施するとともに、地域包括ケア会議等の機会に在宅医療に係る薬局の役割について、医療・介護関係者等の理解促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬局薬剤師を対象に、訪問薬剤指導の際に必要なバイタルサインの取得や調剤における無菌操作等の技術力の習得を目的として、フィジカルアセスメント・訓練モデル（シミュレーター）等を使用した研修 ・入退院時の情報共有の強化及び連携体制の構築を図るため、薬局薬剤師と病院薬剤師が連携し、退院時カンファレンス等への参加や多職種との連携に必要な知識や技能を習得する研修 ・在宅訪問経験の少ない薬剤師が経験豊富な薬剤師と同行訪問する実践形式の研修 <p>また、残薬対策の取組みを促進し、在宅における残薬解消に努める。</p>								
アウトプット指標	研修受講者数 60人								
アウトカムとアウトプットの関連	薬局薬剤師が在宅患者に対する薬学的管理や指導に必要な知識・技術を取得することにより、在宅患者調剤加算届出薬局の増加につながる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		4,572			100		
		基金	国(A)				(千円)	(千円)	
			都道府県(B)				(千円)		2,948
			計(A+B)				(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	0	(千円)	2,948				
備考(注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	8
事業名	No	5	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 9,219 千円	
	強度行動障がい在宅医療福祉連携体制支援事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	岐阜県（医療法人、社会福祉法人へ委託）					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	強度行動障がいのある方への支援は、行動の激しさから、本人や周囲（家族・支援者）が怪我をしたり、障がい者虐待に繋がったりする可能性が高い。そのため、状態が悪化した緊急時に医療的処置を行うことのできる医療機関の確保及び、福祉関係者との連携体制の強化が必要である。					
アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 医療拠点施設の入院受け入れ件数 6件（H27年度）→10件（R4年度） 福祉支援拠点の相談対応ケース数 13件（H27年度）→40件（R4年度） 					
事業の内容	強度行動障がいのある方の緊急時の受け入れを行う医療支援拠点と、医療と福祉を繋ぐコーディネート機能を持つ福祉支援拠点を設置する。					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 医療拠点施設の設置数 0か所（H26年度）→1か所（R4年度） 福祉支援拠点の設置数 0か所（H26年度）→1か所（R4年度） 					
アウトカムとアウトプットの関連	緊急時の受け入れ先（医療支援拠点・福祉支援拠点）を確保し、強度行動障害のある方とその家族の生活を資援する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 9,219	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 0
	基金	国(A)	(千円) 6,146		民	(千円) 6,146
		都道府県(B)	(千円) 3,073			
		計(A+B)	(千円) 9,219			
		その他(C)	(千円) 0			うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) 6,146
備考(注3)	次年度以降も継続予定					

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	8
事業名	No	6	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,000 千円	
	がん在宅緩和地域連携推進事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	岐阜県（岐阜市民病院、岐阜県総合医療センター、大垣市民病院、木沢記念病院、中濃厚生病院、県立多治見病院、高山赤十字病院）					
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	がんに罹患する者が増加傾向にあるなか、がんの在宅療養体制を整備することは喫緊の課題であるため、がん診療連携拠点病院と地域の医療機関等の連携を強化し、がん患者の在宅療養が円滑に移行できる体制を構築・推進することが必要。					
	アウトカム指標	がん患者の在宅死亡割合 15.2 % (H26年) → 増加 (R4年)				
事業の内容	がん診療連携拠点病院のケアコーディネーター等を中心とした連携体制を構築し、在宅療養を見据えた退院調整を行うことにより、拠点病院と在宅療養を支える地域の医療機関が連携して、患者へ切れ目のない緩和ケアを提供し、以て、がん患者の療養の質を高める。					
アウトプット指標	がん緩和ケアコーディネーターの設置 6機関 (H30年度) → 8機関 (R4年度)					
アウトカムとアウトプットの関連	がん診療連携拠点病院に、がん緩和ケアコーディネーターを設置することにより、拠点病院と地域の医療機関等の連携が促進し、がん患者の在宅療養の質の向上が図られることで、在宅での最期を望む患者の希望が叶えられる環境が整う。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		(A+B+C)		4,000		2,286
	基金	国 (A)		(千円)	民	(千円)
		都道府県 (B)		1,334		380
		計 (A+B)		4,000		うち受託事業等 (再掲) (注2)
その他 (C)		0	(千円)	380		
備考 (注3)	次年度以降も継続予定					

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10	
事業名	No	7	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,489千円		
	心臓リハビリテーションネットワーク事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県 岐阜心臓リハビリテーションネットワーク						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	心疾患は、急性期、回復期のみではなく、退院後、在宅療養期において再発防止のため、医療機関及び訪問リハビリ機関との連携による基礎疾患・危険因子の管理、在宅療養・運動療養の支援や治療中断の防止が重要であり、ネットワーク体制を構築する必要がある。						
	アウトカム指標	虚血性心疾患の年齢調整死亡率 男性 30.6、女性 11.2 (H29) → 男性 26.4 以下、女性 10.0 以下 (R5) (R4 年度 男性 27.1 以下、女性は 10.2 以下)					
事業の内容	退院後の在宅療養期における再発防止のため、岐阜圏域において構築されつつある地域連携クリティカルパスの運用や認定トレーナーの養成等のネットワーク体制を岐阜圏域以外の他圏域へ拡大するための会議を開催し、県民公開講座、リーフレット等による県民への啓発を図る。また、他圏域へ拡大するに当たり、各保健所は関係機関との調整等について連携する。						
アウトプット指標	・心臓リハビリテーションのネットワークが構築された圏域 1 圏域(H30) → 5 圏域(R5) (R4 4 圏域)						
アウトカムとアウトプットの関連	急性期を脱した患者が再発しないための心臓リハビリテーションプログラムの開発が必要であり、岐阜圏域だけではなく、県内5圏域に拡大させることで、心疾患による死亡割合の減少を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		3,489			420
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			1,906
		計(A+B)		(千円)			3,489
その他(C)		(千円)	0	(千円)	0		
備考(注3)	次年度以降も継続予定						

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	7
事業名	No	8	新規事業／継続事業	継続	【総事業費（計画期間の総額）】	
	小児・障がい児者在宅家族支援推進事業				41,853千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	(1) 岐阜県（岐阜県看護協会） (2) 重度障がい児者を受け入れる短期入所事業所等 (3) 岐阜県					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	医療的ケアを要する重度障がい児者が増加する一方、その在宅支援体制は未だ不十分であり、今後更に充実を図る必要がある。					
	アウトカム指標	NICU等長期入院児（6ヶ月以上）数 7人（H25年度末）→0人（R4年度末）				
事業の内容	(1) 重症心身障がい在宅支援センター「みらい」の運営 重症心身障がいに特化した支援センターによる相談窓口の運営、家族同士の交流の場である家族交流会の開催、ウェブページ・機関誌等による情報提供及び支援機関に対する指導・研修事業等を実施。 (2) 重度障がい児者向け短期入所等の拡充に向けた支援 重度障がい児者の在宅移行に不可欠なレスパイトの拡充に向け、人工呼吸器や気管切開、経管栄養、頻回の痰吸引など、特に医療依存度が高い方の利便性向上の取組み等受入れに対する支援を実施。 (3) 支援機関相互のネットワークの構築 支援機関で構成する連絡・協議の場を設置し、レスパイトの課題、優良事例の共有や、災害に伴う長期停電時等の人工呼吸器装着児などへの対応体制等の検討を実施。					
アウトプット指標	・障がい児者家族交流会延べ参加者数 0人（H25年度末）→2,200人（R4年度末）					
アウトカムとアウトプットの関連	NICU等出生児が大半を占める、医療依存度が高い重度障がい児者等の相談窓口の運営や、レスパイトの拡充等によって在宅支援体制の充実を図り、NICU入院児が退院後、在宅にて安心して暮らせる体制を整えることで、NICU等長期入院児数の抑制を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		(A+B+C)		41,853		1,175
	基金	国(A)		(千円)	計(A+B)	(千円)
		都道府県(B)		27,902		26,727
		計(A+B)		(千円)		13,951
計(A+B)		41,853	(千円)	(千円)		
その他(C)		(千円)	0	(千円)	9,000	

備考（注3）	R4年度 41,853 千円 その他財源 R4年度事業：R3基金 1,927 千円
--------	--

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10
事業名	No	9	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 8,400 千円	
	小児・障がい児者在宅医療支援福祉人材育成・確保事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	(1) 岐阜県 (岐阜県看護協会) (2) 岐阜県 (岐阜県理学療法士会) (3) 岐阜県 (登録研修機関) (4) 重度障がい児者を受け入れる福祉事業所 (5) 岐阜県 (岐阜県訪問看護ステーション連絡協議会)					
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	医療的ケアを要する重度障がい児者が増加する一方対応できる人材等在宅支援体制は未だ不十分であり、今後更に充実を図る必要がある。					
	アウトカム指標	NICU等長期入院児(6ヶ月以上)数 7人(H25年度末) → 0人(R4年度末)				
事業の内容	(1) 重症心身障がい児者看護人材育成研修の実施 重度障がい児者の在宅医療に対応できる看護人材を育成するため、通年型プログラムによる専門研修及びその修了者等を対象としたフォローアップ研修を実施。 (2) 小児リハビリ専門研修の実施 重度障がい児者の在宅医療に対応できる理学療法士等を育成するため、小児リハビリに関する専門研修を実施。 (3) 喀痰吸引等研修に対する支援 重度障がい児者の在宅医療を支援できる介護職員の育成を促進するため、実地研修受講料の一部補助を実施。 (4) 福祉事業所向け人材育成 訪問診療や訪問看護等の通所型福祉事業所の介護力向上に対する支援等を実施。 (5) 訪問看護師向け人材育成 重度障がい児者の在宅医療に対応できる訪問看護師を育成するため、訪問看護ステーションに所属する看護師等への研修を実施。					
アウトプット指標	・重症心身障がい児者医療研修延べ受講者数 0人(H25年度末) → 1,900人(R4年度末)					
アウトカムとアウトプットの関連	NICU等出生児が大半を占める、医療依存度が高い重度障がい児者等の在宅医療に携わる人材育成の実施によって在宅支援体制の充実を図り、NICU入院児が退院後、在宅にて安心して暮らせる体制を整えることで、NICU等長期入院児数の抑制を図る。					
事業に要する費用の額	金	総事業費	(千円)	基金充当額	公	(千円)

	額	(A+B+C)		8,400	(国費) における 公民の別 (注1)		0	
		基金	国(A)	(千円)		5,600	民	(千円)
			都道府県(B)	(千円)		2,800		5,600
			計(A+B)	(千円)		8,400		うち受託事業等 (再掲)(注2)
			その他(C)	(千円)		0		(千円)
					3,267			
備考(注3)		次年度以降も継続予定						

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	9					
事業名	No	10	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,400千円						
	小児在宅医療推進事業										
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域										
事業の実施主体	岐阜県										
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日										
背景にある医療・介護ニーズ	医療的ケアを要する重度障がい児が増加する一方、その在宅支援体制は未だ不十分であり、今後更に充実を図る必要がある。										
	アウトカム指標	NICU等長期入院児(6ヶ月以上)数 7人(H25年度末)→0人(R4年度末)									
事業の内容	<p>(1) 小児在宅医療研究会の開催 医療・看護・福祉・教育・行政等の関係者が一堂に会して課題や情報を共有しつつ、相互に理解を深め顔の見える関係を構築する場として、小児在宅医療研究会を開催。</p> <p>(2) 障がい児者支援を考える公開連続講座の開催 障がい児者医療に関心を持つ医療・看護・福祉・教育・行政等の関係者が参集し、幅広い見地から障がい児者支援への理解を深める場として公開連続講座を開催。</p>										
アウトプット指標	・岐阜県小児在宅医療研究会延べ参加者数 196人(H25年度末)→5,400人(R4年度末)										
アウトカムとアウトプットの関連	NICU等出生児が大半を占める、医療依存度が高い重度障がい児者等の支援者が、障がい児者医療の知見を深め、多職種連携による支援の輪を広げることにより在宅支援の充実を図り、NICU入院児が退院後、在宅にて安心して暮らせる体制を整えることで、NICU等長期入院児数の抑制を図る。										
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)				
		(A+B+C)		3,400			2,267	(千円)	2,267		
		基金	国(A)				(千円)	(注1)	民	(千円)	
			都道府県(B)				(千円)			1,133	0
			計(A+B)				(千円)			3,400	うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	0	0							
備考(注3)	次年度以降も継続予定										

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	8		
事業名	No	11	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 11,448千円			
	発達障がい診療支援促進事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	医療機関							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	発達障がいの認知度の高まりとともに、診断やカウンセリングを目的に医療機関を受診する人が増加している。身近な医療機関での診察機会を確保するとともに、統合失調症やうつ病等の二次障害を未然に防ぐため、診療待機期間における医療相談体制を整備する等の在宅支援体制の充実を図る必要がある。							
アウトカム指標	発達障がい児者専門外来等診療件数 16,347人(H25年度)→28,500人(R4年度)							
事業の内容	発達障がい専門外来設置医療機関へ補助を行う。							
アウトプット指標	発達障がい専門外来の設置数 6か所(H28年度)→10か所(R4年度)							
アウトカムとアウトプットの関連	発達障がい専門外来の設置を支援し、在宅の発達障がい児者に対する医療提供体制の充実を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		11,448		0		
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			3,816		7,632
			計(A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	0	(千円)	0			
備考(注3)	次年度以降も継続予定							

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	16			
事業名	No	12	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,345千円				
	在宅歯科医療連携室整備事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県（岐阜県歯科医師会）								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢化が進む中、歯科医療機関での受診が困難な在宅療養者の増加が予想されることから、在宅歯科医療提供体制の充実が必要。								
アウトカム指標	歯科訪問診療を実施している歯科医療機関数 664機関（H30年9月）→680機関（R4年度）								
事業の内容	地域間における調整等の広域調整や地域在宅歯科医療連携室の後方支援等の機能を担う在宅歯科医療連携室を運営する。								
アウトプット指標	・在宅歯科医療人材育成研修受講者数の増加 193名（H30年度 延べ人数）→200名（R4年度 延べ人数）								
アウトカムとアウトプットの関連	在宅歯科医療を担う人材を育成することで、在宅医療の受入れ体制の充実が図られ、県内における在宅歯科医療利用件数が増加する。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		4,345			0		
		基金	国(A)				(千円)	うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)
			都道府県(B)				2,897		2,897
			計(A+B)				(千円)		
その他(C)		1,448	(千円)	2,897					
		4,345	(千円)	0					
		0	(千円)						
備考(注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	8		
事業名	No	13	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,000 千円			
	在宅療養あんしん病床登録事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県医師会							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	在宅医療を推進するには、患者が安心して在宅で療養できるサポート体制の整備が必要であり、病状が悪化時等には受診及び入院がスムーズにできるシステムを構築することで、患者やその家族が在宅療養を選択しやすい環境を整えることが求められている。							
	アウトカム指標	在宅療養あんしん病床延べ登録事業登録患者数 487人 (H30年度) → 816人 (R4年度)						
事業の内容	在宅で療養している高齢者を対象に、あらかじめかかりつけ医を通して入院を希望する病院等の情報登録を実施し、登録病院と連携をとることで、病状悪化時にスムーズに受診や入院ができる体制を構築する。							
アウトプット指標	・あんしん病床登録事業医療機関数 77 (H30年度) → 80 (R4年度)							
アウトカムとアウトプットの関連	後方支援体制の整備により、在宅医療に取り組む医療機関の負担を軽減し、在宅医療実施機関の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		3,000		0		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			1,000		2,000
			計 (A+B)			3,000		うち受託事業等 (再掲) (注2)
その他 (C)		0	(千円)	0				
備考 (注3)	次年度以降も継続予定							

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10			
事業名	No	14	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 608千円				
	がん在宅緩和ケア専門人材育成事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県 ((一社) 岐阜県訪問看護ステーション連絡協議会)								
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	がんに罹患する者が増加傾向にあるなか、がん看護やがん在宅緩和ケアに関するニーズは今後一層高まると考える。当県では地域特性に応じた体制整備や直接ケアを行う訪問事業者等の資質向上が課題であり、地域に合わせたがん緩和ケアの連携体制を構築・推進することが必要である。								
	アウトカム指標	在宅がん医療総合診療を行う医療機関の増加 193ヶ所 (H28年) → 増加 (R4年)							
事業の内容	がん専門看護師を講師に活用し、訪問看護師を始めとした多職種を対象に緩和ケアに関する知識と技術を学ぶ研修会を開催し、従事者の資質向上及び横の繋がり・連携強化を図る。								
アウトプット指標	圏域別研修会の開催：年2回								
アウトカムとアウトプットの関連	圏域単位の研修会を開催することにより、より身近な課題を捉えたテーマで話し合う場を持つことで、在宅緩和ケアに携わる従事者の理解が深まり、在宅がん患者への医療提供体制が充実する。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
				608			0		
		基金	国 (A)			(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)			405
			計 (A+B)			(千円)			608
その他 (C)		(千円)	0	(千円)	405				
備考 (注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	12			
事業名	No	15	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 7,000 千円				
	訪問看護体制充実強化支援事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県訪問看護ステーション連絡協議会								
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	医療ニーズのある要介護者が、住み慣れた地域で在宅療養生活を継続するためには、訪問看護体制が不十分な地域における訪問看護体制の充実、訪問看護ステーションの支援が必要となる。								
アウトカム指標	訪問看護ステーション(サテライトを含む)のある市町村の増加 36 (H29年度) → 42 (R4年度)								
事業の内容	訪問看護コールセンターの運営による小規模訪問看護ステーション等への支援及び新人訪問看護師の技術向上を目的とした教育カリキュラム検討等の支援を実施。								
アウトプット指標	・新たに設立した訪問看護ステーション数 20 (令和4年度)								
アウトカムとアウトプットの関連	訪問看護ステーション数の増加により、訪問看護が提供される地域の拡充を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		7,000			0		
		基金	国(A)				(千円)	うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)
			都道府県(B)				(千円)		4,667
			計(A+B)				(千円)		7,000
その他(C)		(千円)	0	0					
備考(注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10				
事業名	No	16	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,550千円					
	理学療法士等人材育成研修事業									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域									
事業の実施主体	岐阜県（岐阜県リハビリテーション協議会）									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展等により、在宅医療・介護分野において、理学療法士等のリハビリテーション専門職の果たす役割の重要性が高まりつつあることから、リハビリテーション専門職の在宅医療・介護における専門的知識の向上を図る必要がある。									
	アウトカム指標	要介護認定者数の増加率の低下 1.71%（H30年）→1.84%（R4年）								
事業の内容	地域包括ケアシステムを推進するためのリーダー研修会の開催や、訪問リハビリテーションの実務者研修会などを開催する。									
アウトプット指標	・研修参加者数 200人（令和4年度）									
アウトカムとアウトプットの関連	リハビリテーションと在宅医療・介護の知識を有する人材を育成することで、増加し続ける要介護認定者数の増加率の低下を図る。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)			
		(A+B+C)		1,550			0			
		基金	国(A)				(千円)	(注1)	民	(千円)
			都道府県(B)				517			1,033
			計(A+B)				(千円) 1,550			うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円) 0	(千円) 1,033							
備考(注3)	次年度以降も継続予定									

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10			
事業名	No	17	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,089千円				
	在宅医療人材育成事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県医師会								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化がますます進む中、療養や介護を必要としながら最後まで居宅で過ごしたいと希望する患者に対応するため、地域における質の高い在宅医療提供体制構築の推進が必要。								
	アウトカム指標	訪問診療を実施する医療機関数 479 (H29年) → 571 (R4年)							
事業の内容	在宅医療を実施する医師の育成・確保及び在宅医療に必要な知識や、在宅における終末期医療技術向上のため医師をはじめとした医療従事者向けの実践的研修及び医療・介護連携を図るための多職種を対象とした研修等の実施により資質向上を図り、在宅医療提供体制構築を推進する。								
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療職向け研修 受講者数 14名 (R2年) → 20名 (R4年) ・多職種連携強化研修 受講者数 58名 (R2年) → 70名 (R4年) 								
アウトカムとアウトプットの関連	訪問診療を実施する医療機関の増加を図ることによって、他の医療機関や訪問看護ステーションとの連携が必要とされる在宅療養支援診療所の整備へと繋げる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
				5,089			0		
		基金	国 (A)			(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)			3,393
			計 (A+B)			(千円)			5,089
その他 (C)		(千円)	0	うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)	0			
備考 (注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10		
事業名	No	18	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,107千円			
	在宅医療連携強化事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県医師会							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	医療ニーズのある要介護者が、住み慣れた地域で在宅療養生活を継続するためには、在宅医療・介護が適切に受けられる体制整備や医療・介護の連携が求められる。							
	アウトカム指標	訪問診療を実施する医療機関数 479 (H29年) → 571 (R4年)						
事業の内容	在宅医療相談窓口による医療・介護関係者等への在宅医療に関する相談支援、地域医師会等が取り組む在宅医療と介護連携による提供体制の推進支援を実施する。							
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 「在宅医療サポート窓口」(在宅医療・介護連携推進コーディネーターへの後方支援) 相談件数 89件 (R2年) → 100件 (R4年) 病診、診診又は多職種における連携体制構築のための検討支援 4件 (R2年) → 5件 (R4年) 							
アウトカムとアウトプットの関連	多職種における在宅医療体制構築の推進と、関係機関同士を結ぶ役割である在宅医療・介護連携推進コーディネーターをサポートする相談窓口を設置することで、在宅医療に取り組む医療機関の負担を軽減し、在宅医療実施機関の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		5,107		0		
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		3,405
			計(A+B)			(千円)		
その他(C)		(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)			
			0		0			
備考(注3)	次年度以降も継続予定							

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10				
事業名	No	19	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,918千円					
	地域高齢者のフレイル予防事業									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域									
事業の実施主体	岐阜県（岐阜県栄養士会）									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展等により、増大する在宅療養者に対する食事・栄養支援のニーズは今後一層高まるため、栄養管理体制を構築し、在宅療養者の栄養管理を行うとともに、高齢者の低栄養・フレイル予防を推進することは、医療・介護費の抑制に極めて重要である。									
	アウトカム指標	低栄養傾向（高齢者）の増加の抑制 20.6%（H28）→22%以下（R5）（R4 21.8%以下）								
事業の内容	地域高齢者の長期的な自立への支援と介護予防を図り、在宅医療を推進するとともに、地域の栄養管理を支える人材を育成する。また、地域の配食事業者や関係機関等と連携し、高齢者の栄養管理体制を構築するための連携会議を開催する。									
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成講座：10回／年 ・栄養講座：30回／年 ・地域の配食事業者等との連携会議：二次医療圏ごとに1回／年 									
アウトカムとアウトプットの関連	高齢者の栄養管理を支える管理栄養士等の人材を育成し、高齢者への栄養・食支援を実施することで、低栄養予防の増加を抑制することが出来る。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)			
		(A+B+C)		3,918			0			
		基金	国(A)				(千円)	2,612	(千円)	
			都道府県(B)				(千円)			1,306
			計(A+B)				(千円)			3,918
その他(C)		(千円)	0	うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)	2,612				
備考(注3)	次年度以降も継続予定									

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10
事業名	No	20	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,000 千円	
	死亡診断及び死体検案推進事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	岐阜県					
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	死亡診断書又は死体検案書の適正な作成が行える医師を育成することで、県内において在宅看取りや死亡診断・死体検案が行える体制を強化する。					
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看取りや死体検案を行う医師のスキルアップ 在宅死亡率の増加 R2 27.4%→R4 30.0% 				
事業の内容	<p>在宅看取りにおける死亡診断や死体検案を適切に行える医師の人材育成を目的とした研修会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域医師等を対象に死体検案等に関する基礎的知識・技能の習得を目的とした研修会の開催 県内の死亡診断及び死体検案の実態を調査、研究し、検案時に必要な対応を記したフローチャートの作成、配布及びその普及による定着のための研修会の開催 					
アウトプット指標	研修会 受講者数 100名 (R3年度 90名)					
アウトカムとアウトプットの関連	圏域の現状に合わせた研修会を開催し、県内において在宅看取りや死体検案の知識や技術を習得できる環境を整備し、研修受講者を増やすことで体制の強化へと繋げる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 1,000	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 0
	基金	国 (A)	(千円) 666		民	(千円) 666
		都道府県 (B)	(千円) 334			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		計 (A+B)	(千円) 1,000			(千円) 666
		その他 (C)	(千円) 0			(千円) 666
備考 (注3)	次年度以降も継続予定					

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	—		
事業名	No	21	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 21,300 千円			
	オンライン診療設備整備事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	<p>在宅医療においては、へき地や中山間地域における医療資源が少ないことから往診・訪問診療の負担が課題となっており、オンライン診療がその解消手段として期待されているところである。</p> <p>しかし、オンライン診療は「対面診療に比して得られる情報が少ない」という医療の質に関わる問題と、「高齢者等は情報通信機器への対応が困難」という技術的な問題がある。</p> <p>このため、訪問看護師が患者側でオンライン診療を補助する「D to P with N」を促進するため、医療機関及び訪問看護事業所が情報通信機器等を購入する経費に対して支援する。</p>							
	アウトカム指標	<p>・訪問看護師が立ち会うオンライン診療件数 0件（令和3年） → 10件（令和4年度）</p>						
事業の内容	オンライン診療に携わる医療機関及び訪問看護ステーションの新規参入及び連携を促進するため、オンライン診療に係る情報通信機器の整備に対する支援を行う。							
アウトプット指標	<p>タブレット等の整備補助を受けた医療機関、訪問看護ステーション 医療機関：125件（令和2年度）→延べ155件（令和4年度） 訪問看護ST：3件（令和3年度）→延べ18件（令和4年度）</p>							
アウトカムとアウトプットの関連	医療機関及び訪問看護ステーションがタブレット等を整備することにより、在宅医療におけるオンライン診療の活用に向けた連携を進めることができる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		21,300		0		
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			6,667		6,667
			計(A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		3,333	(千円)	0				
		10,000	(千円)					
		11,300	(千円)					
備考(注3)	次年度以降も継続予定							

Ⅲ 中山間・へき地医療体制の充実

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—
事業名	No	22	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】	1,608 千円
	へき地医師研修支援事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	市町村					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	<p>へき地においては、医師不足が顕著であり、一人の医師の離職がそのまま当該地域の診療所閉鎖や診療日の減少に直結する状況が続いている。</p> <p>現行の医療体制を維持するためには、新規医師の確保だけでなく、離職防止が不可欠だが、へき地診療所に新たに赴任する医師は少なく、また赴任しても離職してしまうこともある。その背景として、医師側の、へき地では思うようなキャリアアップができないのではないかと、との懸念があることから、へき地診療所で勤務する医師のキャリアアップを支援する必要がある。</p>					
	アウトカム指標	常勤医師の勤務するへき地診療所数 37か所(H29年度)→維持(R5年度)(R4年度37か所)				
事業の内容	へき地診療所の医師が勤務しながらキャリアアップできるよう、学界や研修会への参加を支援する市町村を支援する。					
アウトプット指標	・研修会・学会参加へき地診療所勤務医師数 11人					
アウトカムとアウトプットの関連	へき地医療に従事する医師(県及びへき地医療支援センター派遣医師を除く)は絶えず都市部の勤務医と比較して症例検討等の機会が少ないことを危惧しており、医師が学会等へ参加しやすい環境を整備することで勤務医師の確保を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		(A+B+C)		1,608		715
	基金	国(A)		(千円)	計(A+B)	(千円)
		都道府県(B)		357		0
		計(A+B)		(千円)		1,072
その他(C)		(千円)	536	(千円)	0	
備考(注3)	次年度以降も継続予定					

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	25	
事業名	No	23	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 16,910千円		
	地域医療支援センター運営事業(岐阜県医師育成・確保コンソーシアム)						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県医師育成・確保コンソーシアム						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たりの医療施設従事医師数は224.5人(全国37位)と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師偏在指標においても医師少数県に該当し、県内5医療圏中2医療圏が医師少数区域となっており、医師不足、医師の地域偏在は深刻な状態となっている。</p> <p>医師の定着・確保を推進するためには、県内の病院で勤務すれば自身の成長(キャリアアップ)に繋がると実感できる指導・医師育成体制を構築することが必要である。</p>						
	アウトカム指標	人口10万人対医療施設従事医師数の増加 224.5人(R2調査)→235.9人(R5調査)(232.1人(R4))					
事業の内容	<p>○初期臨床研修医の教育研修事業 知識・技術向上のための初期臨床研修医等を対象としたセミナーや、県内病院における指導体制強化のための研修会を開催。</p> <p>○専攻医等のキャリアアップ及び医師派遣事業 個人に合わせたキャリアパスを作成するとともに、医師不足圏域の勤務に際しては、必要に応じ指導医を派遣。</p>						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 医師派遣・あっせん数 39人 キャリア形成プログラムの作成数 39人 地域卒卒業医師数に対するキャリア形成プログラム参加医師数割合 100% 						
アウトカムとアウトプットの関連	個人に合わせたキャリアパスによる配置調整(派遣)により、医師のキャリアアップと医師不足の解消を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		(A+B+C)		16,910		11,274	
	基金	国(A)		(千円)	計(A+B)	(千円)	
		都道府県(B)		(千円)		5,636	(千円)
		計(A+B)		(千円)		16,910	うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	0	(千円)	0		

備考（注3）	R4年度 16,910千円 その他財源 R4年度事業：R3基金 20,420千円
--------	---

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	24	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,963千円		
	へき地医療従事者マインド養成事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県（一部市町村委託）						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	へき地においては、医師不足が顕著であり、一人の医師の離職がそのまま当該地域の診療所閉鎖や診療日の減少に直結する状況が続いている。 へき地医療体制の維持・充実には、へき地で勤務する医師の確保が課題であるが、へき地においては、専門医ではなく総合的な診療能力を持った医師が必要であり、早い段階からへき地への志向を持った医師を養成する必要がある。						
	アウトカム指標	常勤医師の勤務するへき地診療所数 37か所（H29年度）→維持（R5年度）（R4年度37か所）					
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・へき地医療に従事する医師等を養成するため、高校生、大学生等を対象としたへき地医療を体験する研修会を開催。 ・県のへき地・地域医療に関心を持ってもらうため、県出身の自治医科大学大学生や岐阜大学医学部地域枠学生等を対象とした講座を開催。 						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会・講座の開催回数 5回以上 ・研修会・講座の参加者数 80名以上 						
アウトカムとアウトプットの関連	へき地医療の現場を直に体験してもらうことで、将来のへき地勤務を希望する医師を確保する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		1,963			1,309
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			0
		計(A+B)		(千円)			1,963
その他(C)		(千円)	0	(千円)	0		
備考(注3)	次年度以降も継続予定						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—			
事業名	No	25	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 725 千円				
	医学生セミナー開催事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県（地域医療振興協会）								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	多くのへき地を有する本県においては、へき地医療体制の維持・充実のため、へき地で勤務する医師の確保が課題であるが、卒業後に県内（へき地）に定着する医師の増加を図るには、医学生の時点から地域医療への理解を深めてもらう必要がある。								
	アウトカム指標	人口10万人対医療施設従事医師数の増加 224.5人（R2調査）→235.9人（R5調査）（232.1人（R4））							
事業の内容	岐阜県の地域医療に理解のある医学生を増やすことで将来県内に定着する医師数を増やす。								
アウトプット指標	・セミナー参加者 10人								
アウトカムとアウトプットの関連	岐阜県の地域医療に理解のある医学生を増やすことで将来県内に定着する医師数を増やす。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		725			0		
		基金	国(A)				(千円)	うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)
			都道府県(B)				(千円)		484
			計(A+B)				(千円)		725
その他(C)		(千円)	0	484					
備考(注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—		
事業名	No	26	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,102千円			
	広域的へき地医療体制支援事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	市町村							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	へき地においては、医師不足が顕著であり、一人の医師の離職がそのまま当該地域の診療所閉鎖や診療日の減少に直結する状況にある。 一人の医師に過重の負担がかかることによって医師の疲弊や離職につながる可能性があることから、市町村域を超え、複数の医師で複数の地域を支える取り組みが必要である。							
	アウトカム指標	常勤医師の勤務するへき地診療所数 37か所(H29年度)→維持(R5年度)(R4年度37か所)						
事業の内容	人口減少や少子高齢化に即したへき地医療体制確保のため、市町村域を越えて広域的に行うへき地医療機関の運営(センター化)に必要な医師の移動に関する経費等に対して支援する。							
アウトプット指標	・広域的体制を構築する市町村数 3							
アウトカムとアウトプットの関連	広域的なへき地医療機関を運営し、診療所間で医師を融通し合うことにより、医師の負担軽減が図られ、安定的なへき地医療体制の確保と医師の離職防止につながることを期待される。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円) 1,402		
		(A+B+C)		2,102				
		基金	国(A)				(千円)	民 (千円) 0
			都道府県(B)				(千円)	
			計(A+B)				(千円)	
		2,102	うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) 0					
その他(C)		(千円)		0				
備考(注3)	次年度以降も継続予定							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—
事業名	No	27	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 8,075 千円	
	へき地医療支援機構医師確保事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	岐阜県（市町村、独立行政法人）					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たりの医療施設従事医師数は224.5人（全国37位）と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師不足は深刻な状態となっている。特にへき地においては、医師不足が顕著であり、一人の医師の離職がそのまま当該地域の診療所閉鎖や診療日の減少に直結する状況にある。</p> <p>へき地医療体制の維持及び充実には、へき地勤務医師の確保が喫緊の課題であるが、市町村単独での医師確保は困難であるため、広域的なへき地医療支援事業の企画調整を行う必要がある。</p>					
	アウトカム指標	<p>常勤医師の勤務するへき地診療所数 37か所（H29年度）→ 維持（R5年度）（R4年度37か所）</p>				
事業の内容	へき地医療支援機構は、医学生の意識啓発事業や、へき地勤務医師に対する研修やキャリア形成支援など、広域的なへき地医療支援の企画調整を行う。また、医師招へいのための県外医師向けマッチング会や医療機関見学ツアー等を行う。					
アウトプット指標	<p>へき地勤務医師研修会開催回数：2回以上 県外医師マッチング会開催回数：1回以上</p>					
アウトカムとアウトプットの関連	代診医派遣や医師の招へい事業等を行うことにより、へき地医療体制の維持を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		(A+B+C)		8,075		1,006
	基金	国(A)		(千円)		(千円)
		都道府県(B)		503		0
		計(A+B)		(千円)		1,509
その他(C)		(千円)	6,566	(千円)	0	
備考(注3)	次年度以降も継続予定					

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	28	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 24,565千円		
	中山間・へき地医療支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	病院						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たりの医療施設従事医師数は224.5人(全国37位)と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師不足は深刻な状態となっており、加えて医師の地域偏在も存在している。</p> <p>中核病院が中山間・へき地に医師を派遣しやすい体制の整備支援、各圏域の中核病院から派遣される医師数の増加、医師の地域偏在の緩和が求められている。</p>						
	アウトカム指標	<p>人口10万人対医療施設従事医師数の増加 224.5人(R2調査)→235.9人(R5調査)(232.1人(R4))</p>					
事業の内容	<p>各5圏域における中核病院等が、中山間・へき地医療を支えるため、医師等を中山間・へき地の医療機関(へき地診療所を除く)に派遣し、診療支援を行う場合に必要となる人件費等に対し補助し、医師の地域偏在の緩和を図る。</p>						
アウトプット指標	・派遣される医師数 16人以上						
アウトカムとアウトプットの関連	中山間へき地医療を支援することで、地域における医師不足の解消を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円) 12,696	
		(A+B+C)		24,565			
		基金	国(A)				(千円) 12,696
			都道府県(B)				(千円) 6,348
			計(A+B)				(千円) 19,044
その他(C)		(千円) 5,521	民 (千円) 0 うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) 0				
備考(注3)	次年度以降も継続予定						

IV 障がい児者医療・福祉体制の強化

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28	
事業名	No	29	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 11,644千円		
	発達障がい医療支援人材育成・確保事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	自閉症をはじめとする発達障がい児者が急増する一方、医療従事者の不足などからその診療・療育等の支援体制は未だ不十分である。最新の発達障がいの病理や診断・治療の研究内容を踏まえた支援体制の充実を図る必要がある。						
	アウトカム指標	日本児童青年精神医学会認定医取得者数 2人(H27年度)→13人(R4年度)					
事業の内容	再整備を経て平成27年9月から供用を開始した希望が丘こども医療福祉センター内に設置する「発達精神医学研究所」において、発達障がいの病理や診断・治療の研究を行い、その研究内容を踏まえた、発達障がい児の外来診療を通じた専門医の育成、医師・心理士・作業療法士等がチームとなり県内各地を巡回訪問するアウトリーチ型の相談・指導、県内の医師・療育関係者等に対する研修・相談等を実施し、医療従事者の育成・確保等を推進する。						
アウトプット指標	・巡回訪問療育支援延べ実施回数 52回(R4年度末)						
アウトカムとアウトプットの関連	発達精神医学研究所が行うアウトリーチ型の巡回訪問療育支援等を通じて、児童精神科医の指導のもとで発達障がい専門医を育成することで県内各地の診療・療育体制の充実を図り、発達障がい児診療件数の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	(千円)	
				11,644		7,763	0
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			0
		計 (A+B)		(千円)			11,644
その他 (C)		(千円)	0	うち受託事業等 (再掲) (注2)		(千円)	
						0	
備考 (注3)	次年度以降も継続予定						

V 医療・介護従事者等の確保養成・勤務環境改善

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—			
事業名	No	30	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,500千円				
	地域医療研修推進事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜大学								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たりの医療施設従事医師数は224.5人(全国37位)と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師不足は深刻な状態となっている。</p> <p>研修医等の教育システムがない医療機関では、研修医・専攻医の受入が困難であることから、医師確保のためには、研修医等の教育システムの確立が必要である。</p>								
	アウトカム指標	<p>人口10万人対医療施設従事医師数の増加 224.5人(R2調査)→235.9人(R5調査)(232.1人(R4))</p>							
事業の内容	<p>初期臨床研修における地域医療研修プログラムの策定や岐阜県ブランドの研修体制を確立するための検討会を開催し、岐阜県内の地域医療研修の質の向上を図る。</p> <p>総合診療医の増加を図るため、総合診療に係る講演会の開催や関連学会への参加支援を行う。</p>								
アウトプット指標	・地域医療研修検討会への参加医療機関数の増 90機関以上								
アウトカムとアウトプットの関連	検討会への参加医療機関の増に伴い、教育ノウハウの共有が図られ、県全体の研修医・専攻医受入体制が強化される。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	公	(千円)		
				1,500			1,000		
		基金	国 (A)			(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)			0
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		1,500		0					
その他 (C)		(千円)			0				
		0							
備考 (注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	53			
事業名	No	31	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 17,208 千円				
	小児救急電話相談事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県（民間事業者）								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	小児の保護者等が休日夜間の急な病気やけがにどう対処したらよいか判断に迷う事例が増えている。また、軽症の患者が二次、三次救急を担う中核病院を受診することにより、重症患者の受入に支障をきたしている。そのため、時間外受診の適正化を図る必要がある。								
	アウトカム指標	時間外受診をせずに済んだ相談対象者の割合 66.6% (R3年度1月) → 70.0% (R4年度)							
事業の内容	専門業者に委託し、夜間・休日（休日は24時間体制）に全国共通の「#8000」小児救急電話相談を実施する。								
アウトプット指標	令和4年度小児救急電話相談件数 15,000件程度								
アウトカムとアウトプットの関連	小児救急電話相談窓口を設け、相談者に対し適切な助言を行うことで、時間外受診の適正化を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		17,208			0		
		基金	国(A)				(千円)	(千円)	
			都道府県(B)				11,472		11,472
			計(A+B)				(千円)		5,736
計(A+B)		(千円)	17,208	うち受託事業等 (再掲)(注2)					
その他(C)		(千円)	0	(千円)	11,472				
備考(注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	52			
事業名	No	32	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,532 千円				
	小児救急医療拠点病院運営費補助金								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	小児救急医療拠点病院								
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	平日のみならず、休日・夜間の小児救急医療体制を確保する必要がある。								
	アウトカム指標	小児救急医療拠点病院数 4病院 (R3年度) → 維持 (R4年度)							
事業の内容	休日・夜間に小児救急患者を受け入れる小児救急医療拠点病院へ運用に必要な経費に対し補助を行う。								
アウトプット指標	補助金交付先医療機関 4病院 (R3年度) → 維持 (R4年度)								
アウトカムとアウトプットの関連	いつでも小児救急患者を受け入れる小児救急医療拠点病院に対し、運用に必要な経費に対し補助をすることで、必要な医療機関数を確保することができる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
				5,532		3,688			
		基金	国 (A)				(千円)	0	
			都道府県 (B)				(千円)		
			計 (A+B)				(千円)		
5,532				うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)				
その他 (C)		(千円)	0		0				
備考 (注3)	R4年度 5,532 千円 その他財源 R4年度事業 : R3基金 100,000 千円								

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28					
事業名	No	33	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 40,000 千円						
	三次周産期医療機関分娩体制臨時支援事業費補助金										
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域										
事業の実施主体	三次周産期医療機関										
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日										
背景にある医療・介護ニーズ	産婦人科医師が不足しており、地域の分娩体制を維持するため、三次周産期医療機関の産婦人科医師の確保が必要										
	アウトカム指標	三次周産期医療機関における分娩体制の維持 4医療機関(H26年度)→維持(R5年度末)(R4年度4医療機関)									
事業の内容	分娩体制が危機的な状況にある圏域の三次周産期医療機関の分娩体制を維持するため、他医療機関から常勤産婦人科指導医2名を招聘し、市町村とともに分娩体制の維持を図る。										
アウトプット指標	・新規確保常勤産婦人科指導医数 2人										
アウトカムとアウトプットの関連	指導医2名の確保により、三次周産期医療機関としての分娩体制が維持できる。										
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	(千円)					
				40,000		8,889	0				
		基金	国(A)	(千円)				13,333	(千円)		
			都道府県(B)	(千円)						26,667	0
			計(A+B)	(千円)							
その他(C)		(千円)		うち受託事業等(再掲)(注2) (千円) 0							
備考(注3)	次年度以降も継続予定										

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—			
事業名	No	34	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 500 千円				
	災害医療連携促進事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜大学医学部附属病院								
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	県では、2つの基幹災害拠点病院及び10の地域災害拠点病院を指定しているが、南海トラフ巨大地震等の大規模災害に備え、基幹災害拠点病院を中心とした災害医療関係機関（DMAT、地域災害拠点病院、保健所、消防等）の連携機能の強化を図る必要がある。								
	アウトカム指標	DMATの整備状況 19チーム（H25年度）→ 34チーム（R4年度）							
事業の内容	県内の災害医療関係機関の連携機能の強化を図るため、基幹災害拠点病院である岐阜大学医学部附属病院が実施する災害時の救助、トリアージ、処置、病院選定、搬送、情報伝達等の実際の現場を想定した訓練の他、搬送から受け入れまでのより高度な連携を図るための災害医療研修に対して補助を行う。								
アウトプット指標	研修受講者数：44人以上（H30～R3の平均受講者数：38.3人）								
アウトカムとアウトプットの関連	災害医療関係機関が、搬送から受け入れまでの一連の連携を図るための災害医療研修を受講することで、基幹災害拠点病院を中心とした各関係機関の連携機能の強化を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		500			333		
		基金	国(A)				(千円)	(千円)	
			都道府県(B)				(千円)		0
			計(A+B)				(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
500		(千円)	0						
その他(C)		(千円)	0	(千円)	0				
備考(注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	35	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 214,340千円		
	地域医療確保事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	市町村（一部事務組合を含む）						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たりの医療施設従事医師数は224.5人（全国37位）と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師偏在指標においても医師少数県に該当し、県内5医療圏中2医療圏が医師少数区域となっており、医師不足、医師の地域偏在は深刻な状態となっている。また、看護師等の医療スタッフの不足も深刻な問題である。</p> <p>偏在を解消するためには、各地域の実情に応じた対策を行う必要がある。</p>						
	アウトカム指標	<p>人口10万人対医療施設従事医師数の増加 224.5人（R2調査）→235.9人（R5調査）（232.1人（R4））</p>					
事業の内容	<p>主として医師、看護師の確保を目的として、市町村（一部事務組合を含む）が実施する地域医療確保策（ソフト事業）に対して補助を行う。</p> <p>【対象事業例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療に関する寄附講座事業 ・医学生・看護学生への修学資金貸与事業 ・医学生の地域医療実習 ・医療講演会の開催 など 						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附講座事業数 5講座 ・医学生修学資金の貸与者 5名以上 ・看護学生修学資金の貸与者 40名以上 ・医学生の地域医療実習 1回以上 ・医療講演会 1回以上 						
アウトカムとアウトプットの関連	<p>県内の医師、看護師の確保を進めることで、地域における医師不足の解消を図る。</p>						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		214,340			68,957
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			0
		計(A+B)		(千円)			103,436
その他(C)		(千円)		(千円)			

			110,904			0
備考（注3）	R4年度 103,436千円 その他財源 R4年度事業：R3基金 1,855千円					

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	36	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,830 千円		
	専攻医確保対策事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	医療機関						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たりの医療施設従事医師数は224.5人(全国37位)と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師偏在指標においても医師少数県に該当し、県内5医療圏中2医療圏が医師少数区域となっており、医師不足、医師の地域偏在は深刻な状態となっている。</p> <p>医師確保のためには、専門医研修を行う専攻医を多く確保し、県内への定着を図る必要がある。</p>						
	アウトカム指標	人口10万人対医療施設従事医師数の増加 224.5人(R2調査)→235.9人(R5調査)(232.1人(R4))					
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 専門研修基幹施設が実施する、研修プログラム説明会の開催・出展経費への支援 医師不足圏域の基幹・連携施設が常勤指導医確保のために創設した手当への支援 						
アウトプット指標	研修プログラム説明会の開催：9診療科 指導医招聘手当支給医療機関：1						
アウトカムとアウトプットの関連	専門研修プログラムのPR及び指導医の確保により、県内で専門研修を行う専攻医数を増加させる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円) 207	
		(A+B+C)		1,830			
		基金	国(A)				(千円)
			都道府県(B)				(千円)
			計(A+B)				(千円)
その他(C)		(千円)	民 (千円) 403				
		915	うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円) 0			
		915					
備考(注3)	次年度以降も継続予定						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28
事業名	No	37	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 139,404千円	
	産科医等育成・確保支援事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	分娩取扱機関					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たり医療施設従事医師数は224.5人(全国37位)と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師不足は深刻な状態となっている。</p> <p>特に産科・産婦人科医療施設従事医師数が全国平均を下回っていることから、分娩に携わる産科医、助産師、新生児医療担当医等の不足及び地域偏在の解消を図る必要がある。</p>					
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・手当支給施設の産科・産婦人科医師数 9.1人(H26年)→維持(R4年度) ・分娩1000件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数 132.1人(H26年)→維持(R4年度) 				
事業の内容	分娩手当等を支給している医療機関に対し補助を実施。また、帝王切開に対するほか分娩施設の医師が立ち会う件数に応じて補助を実施。					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩手当の支給施設数 30件 ・分娩手当の支給者数 342件 ・新生児取扱い手当を支給している医療機関への支援件数 3件 ・リスクの低い帝王切開術を行う際に他分娩施設の医師が立ち会う体制を整備する200床未満の分娩施設への支援件数 16件 					
アウトカムとアウトプットの関連	産科医等の処遇改善を通して、県内の産科・産婦人科医師の確保を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		(A+B+C)		139,404		8,562
	基金	国(A)		(千円)	民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)		16,807
		計(A+B)		(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)		(千円)	0	
			101,350			
備考(注3)	次年度以降も継続予定					

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	38	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 6,000 千円		
	産科等医師不足診療科対策事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県 (岐阜大学)						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たり医療施設従事医師数は224.5人(全国37位)と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師不足は深刻な状態となっている。</p> <p>特に、産婦人科、小児科、救急科及び麻酔科の医師不足感が大きいことから、当該診療科医師の増加・診療科偏在の解消が必要である。</p>						
	アウトカム指標	<p>特定診療科の医療施設従事医師数の増加 (各診療科において10人増(H24→R4))</p> <p>産婦人科: 169人→179人(R4)</p> <p>小児科: 224人→234人(R4)</p> <p>救急科: 47人→52人(R4)</p> <p>麻酔科: 62人→72人(R4)</p>					
事業の内容	特に医師が不足する診療科(特定診療科)の医局が中心となり、医学生・研修医を対象とした診療科の魅力伝える研修会等の開催や、関連学会への出席を支援。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 各診療科で研修会の開催 1回以上 各診療科で講演会の開催 1回以上 						
アウトカムとアウトプットの関連	研修会や講演会を開催し、診療科の魅力は学生のうちから継続して伝えることにより、特定診療科の専攻希望者を増加させる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				6,000		4,000	
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			0
		計 (A+B)		(千円)			6,000
その他 (C)		(千円)	0	うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)	0	
備考 (注3)	次年度以降も継続予定						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	39	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 25,200 千円		
	特定診療科医師確保研修資金貸付金事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たり医療施設従事医師数は224.5人(全国37位)と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師不足は深刻な状態となっている。</p> <p>特に、産婦人科、小児科、救急科及び麻酔科の医師不足感が大きいことから、当該診療科医師の増加・診療科偏在の解消が必要である。</p>						
	アウトカム指標	<p>特定診療科の医療施設従事医師数の増加 (各診療科において10人増(H24→R4))</p> <p>産婦人科：169人→179人(R4) 小児科：224人→234人(R4) 救急科：47人→52人(R4) 麻酔科：62人→72人(R4)</p>					
事業の内容	<p>将来、県内の医療機関において特定診療科の専門医として勤務し、地域医療に貢献する意思のある専攻医に対して、研修資金の貸付けを行う。専門医認定後に一定期間、県内医療機関で特定診療科の専門医として勤務した場合は返還を免除する。</p>						
アウトプット指標	特定診療科医師への貸付け 新規 8人						
アウトカムとアウトプットの関連	特定診療科医師を確保することにより、特定診療科医師の増加・診療科の偏在を解消する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				25,200			16,800
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			0
		計 (A+B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
	その他 (C)		(千円)	0		0	
備考 (注3)	次年度以降も継続予定						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	32	
事業名	No	40	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 106,588 千円		
	女性医師等就労環境改善事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	病院						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たり医療施設従事医師数は224.5人(全国37位)と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師不足は深刻な状態となっている状況で、医師国家試験の合格者に占める女性の割合は約1/3となるなど、女性医師の占める割合が増加しているが、本県の県内医療施設に従事している女性医師は856人19.3%にとどまっている。</p> <p>女性医師等の再就業が困難な大きな要因として、就業前の乳幼児の子育て等があることから、家庭と仕事を両立できる働きやすい職場環境を整備する必要がある。</p>						
	アウトカム指標	<p>医療施設従事女性医師割合の増加 19.3% (R2 調査) → 19.8% (R5 調査) (19.6%(R4))</p>					
事業の内容	女性医師に限らず、全ての医師が働きやすい職場環境を整備する病院の取組みを支援し、医師の離職防止や再就業の促進を図る。						
アウトプット指標	・宿日直免除等の就労環境整備により勤務する女性医師数 10人以上						
アウトカムとアウトプットの関連	女性医師の就労環境の改善を通して、県内の女性医師の確保、就業促進を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				106,588			16,466
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			13,858
		計 (A+B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
その他 (C)		(千円)	61,101	0			
備考 (注3)	次年度以降も継続予定						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—		
事業名	No	41	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 17,100 千円			
	初期臨床研修医等確保対策事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県（一部岐阜県病院協会、民間事業者）、病院							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たり医療施設従事医師数は224.5人（全国37位）と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師偏在指標においても医師少数県に該当し、県内5医療圏中2医療圏が医師少数区域となっており、医師不足、医師の地域偏在は深刻な状態となっている。</p> <p>地域医療を確保するためには、臨床研修医を県内定着させる必要がある。</p>							
	アウトカム指標	<p>人口10万人対医療施設従事医師数の増加 224.5人（R2調査）→235.9人（R5調査）（232.1人（R4））</p>						
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・医学生向けの臨床研修病院合同説明会を開催するとともに、全国規模で開催される民間主催の合同説明会へ岐阜県病院群として出展。 ・民間Webサイトを活用し、岐阜県の現状や施策を紹介。 ・臨床研修病院が行う臨床研修の魅力向上策に係る経費を支援。 							
アウトプット指標	・臨床研修医のマッチング数（内定者数） 130人以上							
アウトカムとアウトプットの関連	臨床研修医のマッチング数を増やすことにより、将来県内に定着する医師数を増やす。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		17,100		302		
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		6,698
			計(A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	6,698	(千円)	6,698			
備考(注3)	次年度以降も継続予定							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	32
事業名	No	42	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,806千円	
	女性医師等就労支援事業（医師ワークライフバランス推進事業）					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	岐阜県（岐阜県医師会）					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たり医療施設従事医師数は224.5人（全国37位）と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師不足は深刻な状態となっている状況で、医師国家試験の合格者に占める女性の割合は約1/3となるなど、女性医師の占める割合が増加しているが、本県の県内医療施設に従事している女性医師は856人19.3%にとどまっている。</p> <p>女性医師に県内定着してもらうには、女性医師が働きやすい職場環境を整備し、女性医師の離職防止・再就業を促進する必要がある。</p>					
	アウトカム指標	<p>医療施設従事女性医師割合の増加 19.3%（R2調査）→19.8%（R5調査）（19.6%（R4））</p>				
事業の内容	<p>医師会、医療機関内に就労環境に関する相談窓口を設置し、相談員養成のための研修会を開催するとともに、医学生、研修医、勤務医、人事担当者及び病院管理者を対象とした、就労環境改善・ワークライフバランスに関する講演会を開催する。</p>					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 相談員養成研修会の開催 1回以上 就労環境改善等に関する講演会の開催 3回以上 					
アウトカムとアウトプットの関連	<p>医師の就労環境整備を啓発し、医療現場の環境改善により県内で就労継続する医師を増加させる。</p>					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		(A+B+C)		2,806		37
	基金	国(A)		(千円)		(千円)
		都道府県(B)		936		1,833
		計(A+B)		2,806		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		0	(千円)	1,833		
備考(注3)	次年度以降も継続予定					

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	35			
事業名	No	43	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,145千円				
	新人看護職員研修事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県（岐阜県看護協会）								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	<p>新人看護職員が基本的な臨床実践能力等を学ぶことで、看護の質向上を図るとともに、早期の離職を防止し、人材の確保・定着を図ることが必要である。</p> <p>また、新人看護職員の教育に携わる職員は、新人看護職員が直面する技術的、心理的困難状況を理解し、適切に指導を行うことにより、新人看護職員のストレスを軽減、就業意欲向上につなげる必要がある。</p>								
	アウトカム指標	<p>県内就業看護師等人数の増加（人口10万人対）</p> <p>1,185.0人（H26年末）→1,305.3人（R5年末）（R4年末1,291.8人）</p>							
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関で新人看護職員の教育に携わる職員（教育担当者）に対し、それぞれの課題に即した研修会を実施する。 県内病院の新人看護職員を対象に、合同で新人看護職員研修を実施する。 								
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 指導者研修参加人数 80人 新人看護職員研修参加人数 40人 								
アウトカムとアウトプットの関連	新人看護職員の教育に携わる職員、新人看護職員研修の実施体制・内容の充実により、看護職員の確保・定着を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		3,145			0		
		基金	国(A)				(千円)	(千円)	
			都道府県(B)				(千円)		2,097
			計(A+B)				(千円)		2,097
3,145		(千円)	うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)					
その他(C)		(千円)	0	2,097					
備考(注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36				
事業名	No	44	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,391千円					
	看護師実習指導者講習会開催事業									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域									
事業の実施主体	岐阜県（岐阜県看護協会）									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県内の病院等で勤務する看護師は不足しており、その解消手段の一つとして看護学生の養成は不可欠である。</p> <p>看護学生は、実習病院等への就職を希望することが多く、指導力がある魅力的な実習指導者の存在は県内病院等への就職の誘因となることから、実習指導者が、看護学生個々の特性や能力、心理状況に応じた適切な指導を実践するための知識と技術を習得することができる研修が必要である。</p>									
	アウトカム指標	<p>県内就業看護師等人数の増加（人口10万人対）</p> <p>1,185.0人（H26年末）→1,305.3人（R5年末）（R4年末1,291.8人）</p>								
事業の内容	実習指導者として必要な知識および技術を習得するための講習会を実施。									
アウトプット指標	<p>・講習会修了者数 90人</p> <p>※看護全般60人、特定分野30人（看護全般は隔年開催）</p>									
アウトカムとアウトプットの関連	指導力のある実習指導者を養成し、臨地実習指導体制及び看護学生指導を充実することで、看護師就業者数の増加につなげる。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)			
		(A+B+C)		3,391			0			
		基金	国(A)				(千円)	計(A+B)	うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)
			都道府県(B)				(千円)			2,261
			計(A+B)				(千円)			3,391
その他(C)		(千円)	0	(千円)	2,261					
備考(注3)	次年度以降も継続予定									

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36	
事業名	No	45	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,000 千円		
	看護人材現任者研修事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県（岐阜県看護協会）						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>医療の高度化や専門化に対応できる看護職員を育成するためには、看護教育の質の向上、指導体制の充実が必要であり、現状に見合った教育と指導ができる看護専任教員を育成することが必要である。</p> <p>また、誰もが最後まで住み慣れた地域で生活をするためには、地域の診療所の患者に必要な医療・看護を提供することが必要であるが、その中において、診療所等に勤務する准看護師は地域医療の担い手となっている。高齢化が進む中、患者は複数の疾患をもっていることが多く、地域医療の担い手となるには、それらの疾患について最新の情報を学ぶことが必要である。</p> <p>助産師が専門性を発揮しながら地域社会に貢献することが必要であるが、実践能力向上のための教育体制ができていない現状があることから、実践能力向上の機会を設ける必要がある。</p>						
	アウトカム指標	<p>県内就業看護師等人数の増加（人口10万人対）</p> <p>1,185.0人（H26年末）→1,305.3人（R5年末）（R4年末1,291.8人）</p>					
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師等養成所の専任教員や実習指導者講習会修了者を対象に、より専門的な教育実践能力を高める研修会を開催する。 ・地域医療を担う診療所等に勤務する准看護師を対象に、医療環境の変化に対応した業務能力向上のための研修会を開催する。 ・助産師を対象に、地域社会に貢献できる専門性の高い知識・技術を修得するための研修会を開催する。 						
アウトプット指標	・研修参加者数 320人						
アウトカムとアウトプットの関連	看護教育の充実、看護職員のキャリアアップの機会を提供することにより、看護職員の定着・確保を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		1,000			0
	基金	国(A)		(千円)	(注1)	民	(千円)
		都道府県(B)		334			666
		計(A+B)		(千円)			1,000
その他(C)		(千円)		(千円)			

			0			666
備考（注3）	次年度以降も継続予定					

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	39		
事業名	No	46	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 138,678千円			
	看護師等学校運営事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	民間立看護師等養成所							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	<p>少子高齢化等に伴う医療・看護ニーズの増加に対し、県内医療機関や高齢者施設等で勤務する看護職員は不足しており、今後も看護師等養成所における看護職員養成と安定的供給は必要不可欠なものである。</p>							
アウトカム指標	<p>県内就業看護師等人数の増加（人口10万人対） 1,185.0人（H26年末）→1,305.3人（R5年末）（R4年末1,291.8人）</p>							
事業の内容	民間看護師等養成所の運営に対し補助する。							
アウトプット指標	・補助を行う養成所数 10校							
アウトカムとアウトプットの関連	新たに看護師等を養成することで、県内医療機関等で就業する看護職員の確保を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費（A+B+C）		（千円）	基金充当額（国費）における公民の別（注1）	（千円）		
				138,678		0		
		基金	国（A）			（千円）	民	（千円）
			都道府県（B）			（千円）		82,639
			計（A+B）			（千円）		うち受託事業等（再掲）（注2）
123,959			（千円）	0				
その他（C）		（千円）	14,719					
備考（注3）	次年度以降も継続予定							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	41		
事業名	No	47	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 15,868千円			
	ナースセンター事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県 (岐阜県看護協会)							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	<p>少子高齢化に伴い、県内医療機関及び高齢者施設等の看護人材を安定して確保していくことが必要であることから、看護職員の確保が困難な地域における人材定着、潜在看護人材の就業促進を図るため、離職した看護師等への復職支援を行う必要がある。</p>							
	アウトカム指標	<p>県内就業看護師等人数の増加 (人口10万人対) 1,185.0人 (H26年末) → 1,305.3人 (R5年末) (R4年末1,291.8人)</p>						
事業の内容	<p>○離職した看護師等への復職支援を行うナースセンター機能を強化するため、多治見支所、西濃サテライト、飛騨サテライト、中濃サテライトを設置し、無料職業紹介の他、再就業支援研修の紹介、ナースセンター事業のPR活動等を行う。</p> <p>○看護師等有資格者の離職時届出を確実にを行うため、周知活動、登録方法等問合せへの対応を行う。</p>							
アウトプット指標	<p>ナースセンター多治見支所を通じた就職者数 39人 (R2年度) → 70人 (R4年度)</p>							
アウトカムとアウトプットの関連	<p>離職した看護師等への復職支援を行うことで、看護職員の確保を図る。</p>							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
				15,868		0		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		10,579
			計 (A+B)			(千円)		5,289
その他 (C)		(千円)	15,868	うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)			
		0	0	10,579				
備考 (注3)	次年度以降も継続予定							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	41		
事業名	No	48	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,996千円			
	看護職員等就業促進研修事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県（岐阜県看護協会）							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	医療機関等における看護人材不足を補うためには、育児等で離職した看護人材の復職を促進することが必要である。看護師等の復職と復職後の定着を図るためには、事前に充実した研修を受けることができるよう体制を整備し、不安を軽減することが必要である。							
	アウトカム指標	研修参加者の復職率 60.8%（H27年度）→66.9%以上（R5年度）（R4年度66.1%以上）						
事業の内容	看護職員または看護補助者として、就業（復職）を希望する者を対象とした研修会を医療機関等において実施する。また、訪問看護ステーションにおいて新たに雇用した看護師に対し、随行研修等のOJT研修を実施する。							
アウトプット指標	医療機関研修 25回 訪問看護ステーション研修 15人							
アウトカムとアウトプットの関連	医療機関及び訪問看護ステーションにおける再就業研修を充実させることで、看護職員の離職を防止し、確保・定着を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		4,996		0		
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			1,665		3,331
			計(A+B)			4,996		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		0	(千円)	3,331				
備考(注3)	次年度以降も継続予定							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	49	
事業名	No	49	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,531千円		
	医療勤務環境改善支援センター事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	医療従事者の勤務環境が厳しい中、質の高い医療サービスを継続的に提供するためには、医療従事者が安心して働くことができる職場環境整備が大変重要である。そのため、病院が行う医療従事者の勤務環境改善を支援し、職員の確保・定着の促進を図ることが必要である。						
	アウトカム指標	県内就業医療従事者数の増加（人口10万人対） 1,458.3人（R2年末）→1,541.2人（R5年末）（1,513.5人（R4））					
事業の内容	医療従事者の勤務環境改善を促進するための拠点として、「医療勤務環境改善支援センター」を設置・運営し、相談・助言・啓発活動等を行い、医療機関が主体的に取り組む勤務環境改善を支援する。 医師勤務時間短縮計画への助言を行う。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> センターの支援により医療勤務環境改善計画を策定する医療機関数 4病院 医師勤務時間短縮計画への助言を行う医療機関数 17病院 						
アウトカムとアウトプットの関連	医療機関の主体的な勤務環境改善の取組みを後押しすることで、医療従事者の確保・定着の促進を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
				2,531			1,687
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			0
		計 (A+B)		(千円)			
		2,531		(千円)	0		
その他 (C)		(千円)	0			0	
備考 (注3)	次年度以降も継続予定						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	50
事業名	No	50	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 97,731千円	
	病院内保育所運営事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	医療機関					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	看護職員の再就業が困難な大きな要因として、就業前の乳幼児の子育て等があることから、家庭と仕事を両立できる働きやすい職場環境の整備が必要である。					
アウトカム指標	県内就業医療従事者数の増加（人口10万人対） 1,458.3人（R2年末）→1,541.2人（R5年末）（R4年末1,513.5人）					
事業の内容	病院及び診療所の看護職員等の離職防止及び再就業促進を目的として、病院内保育所設置者に対する保育士等の人件費補助を行う。					
アウトプット指標	・県内の病院内保育所数 75ヶ所					
アウトカムとアウトプットの関連	県内の病院内保育所の設置を促進し、子育て中の医療従事者の離職防止や復職支援を強化する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 97,731	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 4,627
		国(A)	(千円) 48,664		民	(千円) 44,037
	基金	都道府県 (B)	(千円) 24,333			うち受託事業等 (再掲)(注2)
		計(A+B)	(千円) 72,997			(千円)
		その他(C)	(千円) 24,734			0
備考(注3)	次年度以降も継続予定					

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—
事業名	No	51	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 110,030 千円	
	地域医療確保施設設備整備事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	市町村（一部事務組合を含む）					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たり医療施設従事医師数は224.5人（全国37位）と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師偏在指標においても医師少数県に該当し、県内5医療圏中2医療圏が医師少数区域となっており、医師不足、医師の地域偏在は深刻な状態となっている。</p> <p>偏在を解消するためには、地域の実情に応じた対策を行う必要がある。</p>					
	アウトカム指標	<p>人口10万人対医療施設従事医師数の増加 224.5人（R2調査）→235.9人（R5調査）（232.1人（R4））</p>				
事業の内容	<p>主として医師の確保を目的として、市町村（一部事務組合を含む）が実施する地域医療確保策（ハード事業）に対して補助を行う。</p> <p>【対象事業例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師等の施設、住宅の整備事業 ・医療機器等の設備整備事業 <p>（着任予定医師又は医師の招へいに際し、当該者から赴任の条件とされる設備環境について整備する事業）</p>					
アウトプット指標	・施設設備整備実施市町村数 3市町村					
アウトカムとアウトプットの関連	県内の医師の確保を進めることで、地域における医師不足の解消を図る					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		(A+B+C)		110,030		18,343
	基金	国(A)		(千円)		(千円)
		都道府県(B)		(千円)		0
		計(A+B)		(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	0	(千円)	0	
				82,515		
備考(注3)	次年度以降も継続予定					

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	26	
事業名	No	52	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,500 千円		
	医師派遣支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	病院						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県の令和2年人口10万人当たり医療施設従事医師数は224.5人(全国37位)と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師偏在指標においても医師少数県に該当し、県内5医療圏中2医療圏が医師少数区域となっており、医師不足、医師の地域偏在は深刻な状態となっているなか、医師の多い医療機関と医師確保が困難な医療機関が存在しており、医師の偏在の解消が必要。						
	アウトカム指標	人口10万人対医療施設従事医師数の増加 224.5人(R2調査)→235.9人(R5調査)(232.1人(R4))					
事業の内容	比較的医師の多い医療機関(以下「派遣元医療機関」)と医師確保が困難な医療機関があることから、県が派遣の可否及び受入れ希望について照会を行い、県が最終的な医師の派遣決定を行う。派遣元医療機関に対しては、医師を派遣することによる逸失利益相当額を県が補助する。						
アウトプット指標	・医師派遣数 2人程度						
アウトカムとアウトプットの関連	医師不足地域への医師の派遣により、県内における医師の地域偏在の解消を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		(A+B+C)		4,500		2,000	
	基金	国(A)		(千円)	計(A+B)	民	(千円)
		都道府県(B)		1,000			0
		計(A+B)		(千円)			3,000
その他(C)		(千円)	1,500	(千円)	0		
備考(注3)	次年度以降も継続予定						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36
事業名	No	53	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,104千円	
	看護師特定行為研修支援事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	医療機関					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	2025年に向け、さらなる在宅医療等の推進を図るため、特定行為を行う看護師を計画的に養成することが必要。					
	アウトカム指標	特定行為ができる看護師数 60名(R2年度末)→200名以上(R7年度末)(R4年度末116名以上)				
事業の内容	医療機関が負担した看護師特定行為研修の受講経費及び研修期間中の代替職員雇用経費に対して助成する。					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の看護師特定行為研修補助対象者数 11名 ・研修期間中の代替職員雇用経費補助対象者数 2人 					
アウトカムとアウトプットの関連	特定行為研修の受講を促進し、特定行為研修修了看護師を増やすことにより、県地域医療を担う特定行為ができる看護師を増やしていく。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		(A+B+C)		5,104		0
	基金	国(A)	(千円)	3,403	民	(千円)
		都道府県(B)	(千円)	1,701		3,403
		計(A+B)	(千円)	5,104		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)	(千円)	0	(千円)	0		
備考(注3)	次年度以降も継続予定					

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36			
事業名	No	54	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,372千円				
	訪問看護事業所等専門・認定看護師派遣研修事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県（岐阜県看護協会）								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	地域包括ケアシステム体制の構築に向けて、訪問看護事業所等における看護職員の需要が高まっている。 訪問看護には、高度な技術・判断力が求められる一方、能力向上の機会が乏しいことから、さらなる在宅医療の推進のため、研修・教育体系を整備することが必要。								
	アウトカム指標	県内就業看護師等人数の増加（人口10万人対） 1,185.0人（H26年末）→1,305.3人（R5年末）（R4年末1,291.8人）							
事業の内容	研修の機会が得にくい訪問看護事業所等で働く看護職員を対象に、専門看護師・認定看護師が出向いて、施設の個々の課題に即した実践的な講習会を実施する。								
アウトプット指標	・講習会開催施設 40施設								
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療の現場における看護職員の教育・研修体制を充実させることにより、看護職員の就業促進・確保を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		3,372			0		
		基金	国(A)				(千円)	うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)
			都道府県(B)				(千円)		2,248
			計(A+B)				(千円)		3,372
その他(C)		(千円)	0	2,248					
備考(注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	55	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,400 千円		
	総合診療科医師確保研修資金貸付金事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の令和2年人口10万人当たり医療施設従事医師数は224.5人(全国37位)と、全国平均数256.6人を大きく下回り、医師偏在指標においても医師少数県に該当し、県内5医療圏中2医療圏が医師少数区域となっており、医師不足、医師の地域偏在は深刻な状態となっている。</p> <p>特に、へき地等の医師不足地域でニーズの高い、診療科目を横断的に診療できる総合診療科医師の増加が必要である。</p>						
	アウトカム指標	総合診療科の医療施設従事医師数の増加 H30：0人 → R5：5人(4人(R4))					
事業の内容	将来、県内のへき地等の医療機関において勤務する意思のある総合診療科の専攻医に対して、研修資金の貸付けを行う。専門医認定後に一定期間、岐阜圏域以外の知事が指定する医療機関で総合診療科に係る業務に従事した場合は返還を免除する。						
アウトプット指標	・総合診療科医師への貸付け 新規 2人						
アウトカムとアウトプットの関連	総合診療科医師を確保することにより、総合診療科医師の増加・地域偏在を解消する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	(千円)	
				2,400			1,600
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			0
		計 (A+B)		(千円)			
その他 (C)		(千円)	0		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)	
						0	
備考 (注3)	次年度以降も継続予定						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	38			
事業名	No	56	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,266千円				
	看護学生実習受入先拡充事業費								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	医療機関								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	看護系大学の新設等に伴い、看護師等養成所では、看護学生の実習を受け入れる病院等の確保が競争化するなど、県内での実習施設の確保が課題となっている。県外での実習を余儀なくされている養成所もある。実習施設には、実習に行った看護学生が就業するケースも多く、県内の実習施設の増加は県内就業率増加に繋がることから、県内での実習施設を拡充することはメリットがある。								
	アウトカム指標	県内就業看護師等人数の増加（人口10万人対） 1,185.0人（H26年末）→1,305.3人（R5年末）（R4年末1,291.8人）							
事業の内容	新規または拡充して実習を受け入れる施設に対し、実習施設として必要となる設備の整備費かかる経費及び代替職員人件費の一部を補助								
アウトプット指標	・施設設備整備等施設数 15施設								
アウトカムとアウトプットの関連	新規または拡充して、看護学生の実習を受け入れる病院等に対し、受け入れに要する経費の一部を補助することにより、実習施設の拡充につなげ、看護職の養成及び県内就業率の増加を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		2,266			0		
		基金	国(A)				(千円)	(千円)	
			都道府県(B)				755		1,511
			計(A+B)				(千円)		2,266
その他(C)		(千円)	0	うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円)	0				
備考(注3)	次年度以降も継続予定								

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	33
事業名	No	57	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,250 千円	
	歯科衛生士等人材確保事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	岐阜県					
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	<p>急速な高齢化に伴い在宅療養者の増加傾向にあり、また全身の健康の為に口腔健康管理の重要性が広く唱えられるようになってきた。今まで以上に幅広い歯科医療を求められており、現在、県内の歯科技工士・歯科衛生士の人材確保が重要である。</p> <p>訪問歯科診療の対応ができる歯科衛生士も十分でないことから、人材確保のため、現在離職している人材の復職支援や離職防止、訪問歯科診療の対応ができる人材育成に取り組む必要がある。</p>					
	アウトカム指標	<p>県内就業者数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工士 630名 (H30年度調査) → 670名 (R4年度目標) ・歯科衛生士 2,804名 (H30年度調査) → 3,196名 (R4年度目標) <p>訪問歯科衛生指導を実施している歯科診療所数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問歯科衛生指導を実施している歯科診療所数の増加 161箇所 (H29年度調査) → 185箇所 (R4年度目標) 				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療現場から離職している歯科技工士・歯科衛生士の復職を支援するための研修会を開催する。 ・就業歯科衛生士の離職防止のため、勤務環境改善研修会および指導者(トレーナー)向け研修会を開催する。 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問歯科診療に対応できる人材確保のため、現場への同行研修を実施する。 					
アウトプット指標	<p>復職支援研修の参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工士 5名 (H30年度) → 10名 (R4年度目標) ・歯科衛生士 30名 (H30年度) → 40名 (R4年度目標) <p>離職防止研修の参加歯科医療機関数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務環境改善研修 50施設 (R4年度目標) ・指導者向け研修 50施設 (R4年度目標) <p>在宅歯科医療同行医療研修の参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30名 (R4年度目標) 					
アウトカムとアウトプットの関連	<p>復職者の増加や、勤務環境の改善により、県内の歯科技工士・歯科衛生士は充足する。また、訪問歯科診療の知識・技術を習得した歯科衛生士が増加することで訪問歯科衛生指導を実施する歯科医療機関の増加を図る。</p>					
事業に要する費用の額	金	総事業費	(千円)	基金充当額	公	(千円)

	額	(A+B+C)		2,250	(国費) における 公民の別 (注1)		0	
		基金	国(A)	(千円) 1,500				
			都道府県 (B)	(千円) 750			民	(千円) 1,500
			計(A+B)	(千円) 2,250				うち受託事業等 (再掲)(注2)
			その他(C)	(千円) 0				(千円) 1,500
備考(注3)		次年度以降も継続予定						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28	
事業名	No	58	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 7,000 千円		
	小児在宅医療教育支援センター運営事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県 (岐阜大学)						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>小児医療・周産期医療の発達とともに、救命できたものの重い障がいを残し、高度な医療ケアを必要とする子どもが増加傾向にあり、NICUから直接在宅へ移行するため、こどもの家族への負担が大きい。小児患者の在宅移行支援体制の充実にあたり、障がい児者医療及び在宅医療に携わる医療従事者の更なる育成及び確保は必要である。</p> <p>また、高度な医療支援ニーズ等に対応するため、地域の医療、福祉、保健、保育、教育等、在宅医療に携わる医療資源の活性化と連携が必要であるとともに、小児期から成人期への移行期医療の支援も視野に入れた連携支援体制の充実が求められる。</p>						
	アウトカム指標	NICU等長期入院児(6か月以上)数 0人(H30年度末) → 維持(R4年度末)					
事業の内容	岐阜大学大学院医学系研究科に県内の小児在宅医療の中核となる小児在宅医療教育支援センターを設置し、医療的ケアが必要な障がい児者とその家族の在宅生活を支える医療に携わる医療従事者等の人材育成と関連医療機関との連携支援等を図る。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児者医療機関における院外実習受講者数 100人(R4年度末) 実技講習会受講者数(医療従事者) 300人(R4年度末) 						
アウトカムとアウトプットの関連	小児在宅医療教育支援センターを設置することで、障がい児者医療及び在宅医療に対応できる医療従事者の育成を推進することができるとともに、関係医療機関との連携支援等の充実を図り、NICU等入院児が退院後、在宅で安心して暮らせる体制を整えることで、NICU等長期入院児数の抑制を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		7,000			4,666
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			0
		計(A+B)		(千円)			7,000
その他(C)		(千円)		(千円)			

			0			0
備考（注3）	次年度以降も継続予定					

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—		
事業名	No	59	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 35,000 千円			
	感染症寄附講座設置事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県 (岐阜大学)							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	新型コロナウイルス感染症や、今後発生が懸念される新興感染症への迅速な対応にあたり、感染症や感染制御の知識を持った感染症専門医の育成が必要となっている。							
アウトカム指標	①新興感染症等の感染拡大時に対応可能な医療支援ネットワークの創設 (全県連携会議の開催 (年2回以上)) ②病院等に対する感染症患者の受入に伴う体制整備のための個別指導の実施 (年5カ所) ③新型コロナウイルス感染症下等での感染症患者を受け入れる医療機関の増 (10 病院増)							
事業の内容	岐阜大学に寄附講座を設置し、新型コロナウイルス感染症などの災害レベルの感染症に対して、地域の医療資源を最適化した医療体制を構築できる「感染症専門医」を育成し、各圏域において感染症に迅速に対応できる体制を整備する。また、県内医療従事者に対する感染症の講義や研修、感染症災害に関する学術的研究を通じ、感染制御に関する専門的知識を有する従事者を育成し、県内の感染症医療に携わる従事者の連携体制の強化を図る。							
アウトプット指標	①医・薬学生に対する講義及び医学部生等に対する臨床実習の参加者数 (1年間、講義参加者数: 400 名、臨床実習参加者数: 100 名) ②県内医療従事者向け研修の受講者数と受講者が所属する医療機関数 (1年間、受講者数: 300 名、医療機関数: 20 医療機関)							
アウトカムとアウトプットの関連	感染症専門医、感染管理看護師等の育成につなぎ、感染症に係る医療提供体制の充実を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)	
		(A+B+C)		35,000			23,333	
		基金	国 (A)				(千円)	0
			都道府県 (B)				(千円)	
			計 (A+B)				(千円)	
35,000		0	うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)	0			
その他 (C)		(千円)	0	(千円)	0			
備考 (注3)	次年度以降も継続予定							

VI 介護施設整備等の支援

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業				
事業名	【No. 1 (介護分)】 岐阜県介護施設等整備事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,506,160 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域				
事業の実施主体	岐阜県				
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。				
	アウトカム指標：地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域密着型サービス施設等の整備や改修等に要する経費を支援することにより、地域の実情に応じた介護サービス提供体制の整備を促進する。				
	施設等種別	R3 年度末	R4 年度末 (目標)		
	地域密着型特別養護老人ホーム	1,319 床	1,319 床		
	認知症高齢者グループホーム	4,538 床	4,610 床		
	小規模多機能型居宅介護事業所	84 カ所	87 カ所		
	定期巡回・随時対応訪問介護	17 カ所	18 カ所		
看護小規模多機能型居宅介護事業所	13 カ所	15 カ所			
事業の内容	①地域密着型サービス施設等の整備に対する助成を行う。				
	②介護施設等の開設・設置に必要な準備経費に対して支援を行う。				
	③既存施設のユニット化改修や介護医療院への転換整備等に対して支援を行う。				
	施設等種別	R4 年度			
	介護医療院 (転換整備)	41 床			
	※一部 H27 年度積立基金を充当				
④介護施設等における簡易陰圧装置設置やゾーニング環境整備等に対して支援を行う。					
施設等種別	R4 年度				
特別養護老人ホーム (簡易陰圧装置設置)	107 台				
※一部 H27 年度、R 元年度積立基金を充当					
アウトプット指標	・地域包括ケアシステムの構築に向けて、第8期介護保険事業支援計画等において予定している地域密着型サービス施設等の整備を行う。また、既存施設のユニット化改修等を行う。 ※整備予定については、事業の内容に記載				
アウトカムとアウトプットの関連	・地域密着型サービス施設等の整備や改修等を行うことにより、地域の実情に応じた介護サービス提供体制の整備を促進する。				
事業に要する費用の額	事業内容	総事業費 (A+B+C) (注1)	基金		その他 (C) (注2) (千円)
			国 (A)	都道府県 (B)	
	① 地域密着型サービス施設等の整備	(千円) 513,280	(千円) 342,186	(千円) 171,094	(千円)
② 施設等の	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	

	開設・設置に必要な準備経費		443,300	295,533	147,767		
	③介護サービスの改善を図るための既存施設等の改修		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
	④新型コロナウイルスの感染拡大を防止するための簡易陰圧装置の設置等		(千円) 549,580	(千円) 366,386	(千円) 183,194	(千円)	
	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 1,506,160	基金 充当額 (国費) における公民 の別 (注3) (注4)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円) 1,004,105		民	(千円)
都道府県 (B)			(千円) 508,055				
計 (A)+(B)			(千円) 110,390				
その他 (C)		(千円)					
備考(注5)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。						

事業の区分	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に関する事業																																			
事業名	【No. 2 (介護分)】 高齢者施設等感染症拡大防止対策事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 549,580 千円																																		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域																																			
事業の実施主体	岐阜県																																			
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日																																			
背景にある医療・介護ニーズ	<p>高齢者が施設において、安心して生活できる環境を整備する。</p> <p>アウトカム指標：高齢者施設等における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に要する経費を支援することにより、高齢者が施設において安心して生活できる環境整備を促進する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業</th> <th>R4 年度末</th> <th>R5 年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>簡易陰圧装置設置事業</td> <td>603 台</td> <td>629 台</td> </tr> <tr> <td>ゾーニング環境事業</td> <td>71 カ所</td> <td>78 カ所</td> </tr> </tbody> </table>		事業	R4 年度末	R5 年度末	簡易陰圧装置設置事業	603 台	629 台	ゾーニング環境事業	71 カ所	78 カ所																									
事業	R4 年度末	R5 年度末																																		
簡易陰圧装置設置事業	603 台	629 台																																		
ゾーニング環境事業	71 カ所	78 カ所																																		
事業の内容	<p>① 看取り室環境整備に対する助成を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設等種別</th> <th>R4 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別養護老人ホーム</td> <td>1 施設</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者グループホーム</td> <td>1 カ所</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 簡易陰圧装置の設置に対する助成を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設等種別</th> <th>R4 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有料老人ホーム</td> <td>23 台</td> </tr> <tr> <td>介護医療院</td> <td>2 台</td> </tr> <tr> <td>介護老人保健施設</td> <td>15 台</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム</td> <td>22 台</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td>7 台</td> </tr> <tr> <td>短期入所生活介護事業所</td> <td>10 台</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者グループホーム</td> <td>17 台</td> </tr> <tr> <td>サービス付き高齢者向け住宅</td> <td>11 台</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ ゾーニング環境整備に対する助成を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設等種別</th> <th>R4 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別養護老人ホーム</td> <td>23 カ所</td> </tr> <tr> <td>介護医療院</td> <td>1 カ所</td> </tr> <tr> <td>介護老人保健施設</td> <td>8 カ所</td> </tr> <tr> <td>看護小規模多機能型居宅介護</td> <td>1 カ所</td> </tr> </tbody> </table>		施設等種別	R4 年度	特別養護老人ホーム	1 施設	認知症高齢者グループホーム	1 カ所	施設等種別	R4 年度	有料老人ホーム	23 台	介護医療院	2 台	介護老人保健施設	15 台	特別養護老人ホーム	22 台	小規模多機能型居宅介護事業所	7 台	短期入所生活介護事業所	10 台	認知症高齢者グループホーム	17 台	サービス付き高齢者向け住宅	11 台	施設等種別	R4 年度	特別養護老人ホーム	23 カ所	介護医療院	1 カ所	介護老人保健施設	8 カ所	看護小規模多機能型居宅介護	1 カ所
施設等種別	R4 年度																																			
特別養護老人ホーム	1 施設																																			
認知症高齢者グループホーム	1 カ所																																			
施設等種別	R4 年度																																			
有料老人ホーム	23 台																																			
介護医療院	2 台																																			
介護老人保健施設	15 台																																			
特別養護老人ホーム	22 台																																			
小規模多機能型居宅介護事業所	7 台																																			
短期入所生活介護事業所	10 台																																			
認知症高齢者グループホーム	17 台																																			
サービス付き高齢者向け住宅	11 台																																			
施設等種別	R4 年度																																			
特別養護老人ホーム	23 カ所																																			
介護医療院	1 カ所																																			
介護老人保健施設	8 カ所																																			
看護小規模多機能型居宅介護	1 カ所																																			

	ケアハウス	1カ所			
	サービス付き高齢者向け住宅	12カ所			
	短期入所生活介護事業所	2カ所			
	有料老人ホーム	10カ所			
	認知症高齢者グループホーム	8カ所			
	デイサービスセンター	1カ所			
	小規模多機能型居宅介護事業所	4カ所			
アウトプット指標	・高齢者施設等における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行う。				
アウトカムとアウトプットの関連	・高齢者施設等における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行うことにより、高齢者が施設において安心して生活できる環境整備を促進する。				
事業に要する費用の額	事業内容	総事業費 (A+B+C) (注1)	基金		その他 (C) (注2)
		(千円)	国 (A)	都道府県 (B)	(千円)
	多床室の個室化改修	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
	簡易陰圧装置の設置	299,394	199,596	99,798	(千円)
	ゾーニング環境整備	250,186	166,790	83,396	(千円)
	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 549,580	公
基金		国 (A)	(千円) 366,386	基金 充当額 (国費) における 公民の 別 (注3) (注4)	民
		都道府県 (B)	(千円) 183,194		
		計 (A)+(B)	(千円) 549,580		
その他 (C)	(千円)	(千円) 547,743			
備考(注5)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。				

(注1) 事業者が未定等のため、総事業費が不明の場合は、記載を要しない。

(注2) 事業者が未定で、事業者負担額が不明の場合は、記載を要しない。

(注3) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注4) 指定管理者制度の活用など設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。

(注5) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

Ⅶ 介護人材確保対策・資質向上の推進

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (小項目) 15 ロ. 外国人留学生及び特定技能1号外国人の受け入れ環境整備事業							
事業名	【No.3 (介護分)】 外国人介護人材マッチング支援事業				【総事業費】 5,521千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県 (民間事業者へ委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度) → 39,493人 (令和5年度)							
事業の内容	県内介護施設への就労 (特定技能1号) 及び介護福祉士養成施設への留学を希望する人材と、県内介護施設及び介護福祉士養成施設 (以下「県内介護施設等」という。) とのマッチングにつなげるため、県内介護施設等と送出し国関係機関等と相互の情報提供、就労・留学候補者に対する送出し国での説明会等を実施する。							
アウトプット指標	現地における合同説明・面接会の開催 ・参加者数 60人/年							
アウトカムとアウトプットの関連	外国人労働者の介護分野への新規参入促進を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2)	3,509 (千円)
			計 (A+B)			(千円)		
			その他 (C)			(千円)		
備考 (注3)								
4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 基盤構築 (小項目) 3. 人材育成等に取り組む事業所の認証評価制度実施事業								
事業名	【No. 4 (介護分)】 介護人材育成事業者認定制度実施事業				【総事業費】 23,580 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県、岐阜県 (民間事業者へ委託)、民間事業者へ補助								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。								
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度) → 39,493人 (令和5年度)								
事業の内容	人材の育成と職場関係改善に積極的に取り組む介護事業者を認定し、公表することで、介護人材の確保、育成及び定着を促進する。								
アウトプット指標	求職者・就業者が安心して働き続けられる環境整備に向けた事業者の育成。 ・認定事業者 20事業者/年								
アウトカムとアウトプットの関連	求職者・就業者が安心して働き続けられる環境を整備し、介護人材の参入、定着及び育成を促進する。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
				23,580			1,065		
		基金	国 (A)			(千円)	公民の別 (注1)	民	(千円)
						15,720			14,655
			都道府県 (B)			(千円)			7,860
計 (A+B)		(千円)	23,580	14,655					
その他 (C)		(千円)		(千円)					
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (小項目) 4. 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業							
事業名	【No.5 (介護分)】 イメージアップ事業				【総事業費】 2,334 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県 (岐阜県社会福祉協議会へ委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度末) → 39,493人 (令和5年度末)							
事業の内容	小・中学生を対象に、早い時期から介護の仕事の大切さを伝え、介護についての理解・認識を深めることで、介護のイメージアップ、啓発を図る。							
アウトプット指標	介護の仕事の大切さを伝え、介護についての理解・認識を深めることで、介護のイメージアップ、啓発を図る。 ・ふくしのお仕事体験フェスタ参加者：300人/年 ・福祉の仕事ガイドブックの作成：20,000部/年							
アウトカムとアウトプットの関連	介護のイメージアップ、啓発を図り、介護人材の参入を促進する。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)	(千円)				(千円)
		その他 (C)	(千円)	1,556				
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業									
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (小項目) 29. 新人介護職員に対するエルダー、メンター制度等導入支援事業									
事業名	【No. 6 (介護分)】 新人介護職員定着促進事業				【総事業費】 3,087 千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域									
事業の実施主体	岐阜県 (民間事業者へ委託)									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	介護分野では、離職者のうち就業後3年未満の早期に離職する者が約7割を占めており、介護人材の定着を促進させるには、これらの就業間もない新人介護職員の定着対策を図ることが重要。									
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度) → 39,493人 (令和5年度)									
事業の内容	新人介護職員の定着を図るため、介護職員の実践的な技術向上やコミュニケーションに係る研修・交流会を開催する。									
アウトプット指標	新人介護職員に対する研修・交流会を開催 ・参加者：150人/年 新人介護職員の相談窓口を開設 ・相談件数：20件/年									
アウトカムとアウトプットの関連	新人介護職員の定着を図り、介護人材の確保を促進する。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)				
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)		
			都道府県 (B)			(千円)		民	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)	
			計 (A+B)			(千円)				2,058
			その他 (C)			(千円)				
		3,087			2,058					
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (小項目) 4. 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業						
事業名	【No. 7 (介護分)】 介護人材総合情報サイト運営事業				【総事業費】 11,935 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県、岐阜県 (民間事業者へ委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	インターネットを活用した情報収集・就職活動が主流となる中で、介護の仕事の魅力等について、幅広く情報発信し、仕事への理解を深め、将来にわたる介護人材の確保・定着を図る。						
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度) → 39,493人 (令和5年度)						
事業の内容	岐阜県内の介護事業所の魅力的な取組みや介護業界で活躍する人の紹介、イベント情報などを掲載したポータルサイトを運営する。また、サイトと連携してツイッターでの情報発信を行う。						
アウトプット指標	インターネットを通じて広く情報提供することにより、介護人材の確保・定着及び介護事業所の職場環境改善向上を図る。 ・1ヶ月平均アクセス 1,500件 ・認定事業者等への取材 120件/年						
アウトカムとアウトプットの関連	介護の仕事の魅力等について、幅広く情報発信し、介護人材の確保・定着を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)	(千円)			(千円)
		その他 (C)	(千円)	7,957		7,957	
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (小項目) 5. 若者・女性・高齢者など多様な世代を対象とした介護の職場体験事業							
事業名	【No. 8 (介護分)】 介護人材参入促進事業				【総事業費】 14,379 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県、岐阜県 (岐阜県社会福祉協議会へ委託)、民間事業者へ補助							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度末) → 39,493人 (令和5年度末)							
事業の内容	介護の職場体験やセミナーなどを通して、介護の仕事への理解を深め、将来を含めた介護の仕事への就業を促進する。							
アウトプット指標	将来にわたって福祉・介護人材の安定的な参入促進を図る。 ・親子職場体験バスツアー参加者：240人/年 ・事業者が行う地域住民向け職場体験・セミナー開催等：30団体/年							
アウトカムとアウトプットの関連	介護現場に従事していない方や潜在的有資格者など、幅広い世代に対して、介護人材への新規就業促進を行い、介護人材を確保する。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
				14,379		0		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
						9,586		9,586
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		4,793	(千円)					
計 (A+B)		(千円)	14,379	9,586				
その他 (C)		(千円)						
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (小項目) 8. 介護未経験者に対する研修支援事業							
事業名	【No.9 (介護分)】 介護職員初任者研修等支援事業			【総事業費】	7,155 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	民間事業者へ補助							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護を必要とする方が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図る。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人（令和元年度末）→39,493人（令和5年度末）							
事業の内容	介護職員初任者研修の経費を助成し、研修修了を支援する。 （補助額の上限 8万円/人） 生活援助従事者研修の経費を助成し、研修修了を支援する。 （補助額の上限 4万円/人）							
アウトプット指標	介護職員の初任者研修等の受講を支援し、技術力の向上を図る。 ・事業所等で就労かつ初任者研修課程を修了した者の数：125人/年 ・事業所等で就労かつ生活援助従事者研修課程を修了した者の数：50人/年							
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員の初任者研修等の受講を支援し、介護人材の育成・定着を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			計 (A+B)			(千円)		
		その他 (C)		(千円)				
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業										
	(大項目) 参入促進 (小項目) 12 イ. 多様な人材層に応じたマッチング機能強化事業										
事業名	【No.10 (介護分)】 介護福祉士等登録制度普及促進事業			【総事業費】 5,675 千円							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域										
事業の実施主体	岐阜県 (岐阜県社会福祉協議会へ委託)										
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日										
背景にある医療・介護ニーズ	離職した介護有資格者に対して岐阜県福祉人材総合支援センターへの届出を促進し、潜在的有資格者の再就業推進を図る。										
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度末) → 39,493人 (令和5年度末)										
事業の内容	離職した介護福祉士等の届出制度の普及啓発を図り届出を促進するとともに、届出者に対する再就業に向けた情報提供、支援を行う。										
アウトプット指標	離職した介護福祉士等の届出制度の普及啓発を図るとともに。届出者の再就業に向けた支援を行う。 届出システムへの登録人数 425人/年										
アウトカムとアウトプットの関連	離職した介護福祉士等の届出制度の普及啓発を図るとともに、届出者の再就業に向けた支援を行い、介護職員の増加を図る。										
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	5,675	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)			
		基金	国 (A)	(千円)	3,783			民	(千円)	3,783	
			都道府県 (B)	(千円)	1,892				うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)	3,783
			計 (A+B)	(千円)	5,675						
		その他 (C)	(千円)								
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。										

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 18 イ. 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業						
事業名	【No. 11 (介護分)】 喀痰吸引等研修事業				【総事業費】 2,039 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	研修指導者（指導看護師）を養成することで、安全に医行為を実施できる介護職員を育成する。 ・指導者養成研修：年2回開催 ・研修指導者養成数：年間80名程度						
	アウトカム指標：研修指導看護師の増加 161人（平成25年度）→698人（令和4年度）						
事業の内容	介護職員等がたんの吸引等を実施するために受講することが必要な研修（実地研修）の講師を養成する。						
アウトプット指標	研修指導者（指導看護師）を養成することで、安全に医行為を実施できる介護職員を育成する。 ・指導者養成研修：2回／年 ・研修指導者養成数：80名／年						
アウトカムとアウトプットの関連	安全に医行為を実施できる介護職員を育成し、研修指導看護師の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)	(千円)			(千円)
		その他 (C)	(千円)				
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 18 イ. 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業						
事業名	【No. 12 (介護分)】 介護職員資質向上支援事業				【総事業費】 2,400 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県 (岐阜県社会福祉協議会へ委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。						
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508 人 (令和元年度末) → 39,493 人 (令和5年度末)						
事業の内容	介護サービス事業所で従事する介護職員が、その知識・技能の向上を目指して参加する研修に対して、研修参加費の一部を支援する。						
アウトプット指標	介護サービス事業所で従事する介護職員への研修受講を推進し、知識・技能の向上を目指す。 ・コーディネートによる支援件数：200 件/年						
アウトカムとアウトプットの関連	介護サービス事業所で従事する、各介護職員に応じた研修をコーディネートすることで、適正な研修受講を推進し、介護人材の育成を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		1,600	うち受託事業等 (再掲) (注2)
			都道府県 (B)	(千円)		800	
			計 (A+B)	(千円)		2,400	
		その他 (C)	(千円)	1,600			
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業									
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 18 イ. 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業									
事業名	【No. 13 (介護分)】 介護人材キャリアパス支援事業				【総事業費】 44,650 千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域									
事業の実施主体	民間事業者、市町村へ補助									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。									
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人（令和元年度末）→39,493人（令和5年度末）									
事業の内容	研修等の開催支援により、介護従事者の就労年数や職域階層等に応じた知識や技術等の修得を促進し、人材育成とキャリアパスの実現を図るとともに、地域状況に合わせた市町村が実施する介護人材確保対策事業を支援する。									
アウトプット指標	介護従事者の就労年数や職域階層等に応じた知識や技術等の修得に向け、事業者等が行う研修等の支援と、研修受講促進のため代替職員確保費用の支援を行う。 ・事業者等が実施するセミナー、研修等の開催支援：50団体/年 ・研修受講支援(代替職員確保支援)：40団体/年									
アウトカムとアウトプットの関連	介護従事者の就労年数や職域階層等に応じた研修等の開催を支援し、介護人材の育成・定着を図る。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)				
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)		
			都道府県 (B)			(千円)		民	(千円)	
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			その他 (C)			(千円)				
			44,650		2,000					
			29,766		28,166					
			14,884							
			44,650							
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 18ロ. 介護キャリア段位におけるアセッサー講習受講支援事業							
事業名	【No. 14 (介護分)】 アセッサー講習受講支援事業費補助金				【総事業費】 1,270			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県、岐阜県 (民間事業者へ委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護職員のキャリアアップの仕組みを構築し、資質向上と介護事業所におけるOJTの推進を図る。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度) → 39,493人 (令和5年度)							
事業の内容	介護職員の資質向上と県内事業所におけるOJTの推進を図るため、介護キャリア段位におけるアセッサー講習の受講支援を行う。							
アウトプット指標	介護職員の資質向上と県内事業所におけるOJTの推進を図るため、介護キャリア段位におけるアセッサー講習の受講支援を行う。 ・アセッサー講習受講に係る支援実施者：120人							
アウトカムとアウトプットの関連	介護キャリア段位制度を導入・活用する事業所の増加を図ることにより、介護人材の育成と離職防止・定着を促進し、介護人材の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			計 (A+B)	(千円)				847
		その他 (C)		(千円)		1,270		
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 24 ロ. チームオレンジコーディネーター研修等事業							
事業名	【No. 15 (介護分)】 チームオレンジ・コーディネーター研修事業			【総事業費】 238 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	各市町村において一定の活動の質を担保しながら、チームオレンジの設置を推進していく必要がある。							
	アウトカム指標： チームオレンジ設置市町村数 42市町村（令和7年度）							
事業の内容	チームオレンジの設置・活動を推進するために市町村に配置するコーディネーターやチームオレンジのメンバー等に対して、必要な知識や技術を習得するための研修等を実施する。							
アウトプット指標	研修会の参加市町村数 0市町村（令和元年度） → 37市町村（令和4年度）							
アウトカムとアウトプットの関連	研修会に全市町村が参加することにより、必要な知識や技術を習得し、全市町村にチームオレンジを設置するとともに、県内全域の活動の質の向上を図ることができる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		238		159		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			計 (A+B)			(千円)		238
その他 (C)		(千円)						
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 24 イ. 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業								
事業名	【No.16 (介護分)】 認知症対応型サービス事業開設者等研修事業				【総事業費】 1,167 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県 (社会福祉法人岐阜県福祉事業団へ委託)								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	認知症対応型サービス事業所が増加しており、受講希望者も増加している。								
	アウトカム指標：認知症対応型サービス事業開設者等研修修了者数 0人 (平成27年度) → 延べ896人 (令和3年度)								
事業の内容	認知症対応型サービス事業所開設者向け研修会を開催する。								
アウトプット指標	認知症介護の適切なサービスの提供に関する知識等を有した事業所・介護従事者の増加。 ・認知症対応型サービス事業開設者研修受講者：延べ11.5人/年 ・認知症対応型サービス事業管理者研修受講者：延べ89.8人/年 ・小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修受講者：延べ26.7人/年								
アウトカムとアウトプットの関連	認知症介護のサービス提供に必要な知識を有した事業所や介護従事者が増加することにより、認知症介護の質が向上する。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	778
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)			778		
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (小項目) 32 イ. 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業								
事業名	【No. 17 (介護分)】 サポートダイヤル事業				【総事業費】 4,305 千円				
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県 (岐阜県社会福祉協議会へ委託)								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニ ーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に 対応するため、介護職員の確保・育成が必要。								
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508 人 (令和元年度末) → 39,493 人 (令和5年度末)								
事業の内容	専門相談員を配置し、介護職員が抱える悩みや不満等への相談に 対応するとともに、介護事業所を訪問し働きやすい労働環境の整 備について助言する。								
アウトプット指標	介護業務に従事する職員の間人関係や業務内容等に対する悩み・不 満などの相談対応 ・就労・定着支援相談件数：160 件程度/年								
アウトカムとアウトプ ットの関連	介護人材が抱える悩み・不満などの相談対応を行い、職員の離職 防止・定着を促進する。								
事業に要する費用の額	金 額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		(A+B+C)		4,305		民	(千円)		
		基 金	国 (A)				(千円)	2,870	
			都道府県 (B)				(千円)	1,435	うち受託事業 等 (再掲) (注2) (千円)
			計 (A+ B)				(千円)	4,305	
その他 (C)		(千円)							
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年 度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (小項目) 32 ロ. 介護ロボット導入支援事業							
事業名	【No. 18 (介護分)】 介護ロボット導入促進事業				【総事業費】 197,016 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	民間事業者へ補助							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材が不足しており、人材確保のため、業務効率化、省人力化など働きやすい環境整備が必要である。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人(令和元年度)→39,493人(令和5年度)							
事業の内容	県内の特別養護老人ホーム等介護保険施設を対象に、介護ロボットの導入に係る経費を補助する。							
アウトプット指標	介護ロボットの導入支援 ・導入目標施設数：50事業所/年							
アウトカムとアウトプットの関連	業務効率化、省人力科など働きやすい環境整備を推進し、介護人材の離職防止・定着を促進する。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)			(千円)		(千円)
			その他 (C)			(千円)		
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (小項目) 32 ハ. ICT 導入支援事業								
事業名	【No. 19 (介護分)】 介護事業所における ICT 導入事業費補助金				【総事業費】 255,717 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	民間事業者へ補助								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材が不足しており、人材確保のため、業務効率化、省人力化など働きやすい環境整備が必要である。								
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508 人 (令和元年度) → 39,493 人 (令和5年度)								
事業の内容	介護事業所職員の業務負担軽減・効率化を図るため、ICT機器導入にかかる経費を補助する。								
アウトプット指標	ICTを導入する事業所 56 事業所/年								
アウトカムとアウトプットの関連	業務負担軽減・効率化など働きやすい環境整備を推進し、介護人材の離職防止・定着を促進する。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			
		その他 (C)		(千円)					
255,717									
170,478									
85,239									
255,717									
備考 (注3)									
次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (小項目) 16 イ. 福祉系高校修学資金貸付事業 16 ロ. 介護分野就職支援金貸付事業							
事業名	【No. 21 (介護分)】 介護福祉士修学資金等貸付事業				【総事業費】 35,270 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県、岐阜県社会福祉協議会							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人(令和元年度末)→39,493人(令和5年度末)							
事業の内容	福祉系高等学校在学者、他業種から介護職へ再就職した者に対して、介護福祉士取得のための修学資金、就職準備金を貸し付け、県内介護職員として一定期間従事した場合には、返還を免除する。							
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 福祉系高等学校修学資金貸付者数：30人/年 他業種から介護職へ再就職した者に対する貸付者数：50人/年 							
アウトカムとアウトプットの関連	貸付者に対し、県内介護職員従事した場合の返還免除制度を設けることにより、介護人材の確保及び離職防止・定着を促進し、介護人材の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			計 (A+B)	(千円)				
		その他 (C)	(千円)	35,270		11,757		
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (小項目) 32 イ. 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業							
事業名	【No. 22 (介護分)】 外国人介護人材受入環境整備事業				【総事業費】 5,017 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県 (中部学院大学へ委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護を必要とする方が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図る。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度) → 39,493人 (令和5年度)							
事業の内容	外国人介護労働者の受け入れ体制の構築や外国人・日本人介護労働者が共に働きやすい環境の整備を促進することで、多文化共生を推進するとともに、介護サービスを支える介護人材の育成と介護サービスの質の向上を図る。							
アウトプット指標	外国人介護労働者の受入れ環境整備に関するセミナーの開催 ・セミナー参加者：180人/年 外国人介護人材に関する相談窓口の設置 ・相談件数：20人/年							
アウトカムとアウトプットの関連	外国人介護労働者の受入れ環境整備を図り、外国人・日本人介護労働者が共に働きやすい環境づくりを進めることで、介護人材の確保を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)			(千円)		(千円)
		その他 (C)		(千円)			3,345	
			5,017					
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 18 イ. 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業								
事業名	【No.23 (介護分)】 介護人材確保・育成支援事業 (連携協定分)				【総事業費】 2,908 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県 (中部学院大学へ委託)								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	介護を必要とする方が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図る。								
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508 人 (令和元年度) →39,493 人 (令和5年度)								
事業の内容	中部学院大学等の介護人材育成に係る知見を有する講師人材等を活用し、介護事業所への研修講師の派遣を行う。								
アウトプット指標	・介護事業所への研修講師の派遣：60 回/年								
アウトカムとアウトプットの関連	人手不足から研修への職員派遣が困難な介護事業所へ大学等から研修講師を派遣することで、介護人材の育成・定着促進を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
				2,908			75		
		基金	国 (A)			(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)			1,869
			計 (A+B)			(千円)			(千円)
その他 (C)		(千円)		1,869					
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 18 イ. 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業					
事業名	【No. 23 (介護分)】 岐阜県介護研修センター運営事業			【総事業費】 2,509 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	岐阜県 (委託)					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化が進む社会情勢において、介護サービスを支える人材の資質向上に関する事業は必要性が高い。					
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508 人 (令和元年度末) → 39,493 人 (令和5年度末)					
事業の内容	介護専門職や一般の方向けに対する研修・講座に特化した「岐阜県介護研修センター」の運営を行う。					
アウトプット指標	開催する研修事業：30					
アウトカムとアウトプットの関連	研修受講生の介護スキル等の向上により、介護・福祉人材全体の資質向上及び底上げが図られ、満足度の向上と働きやすさの向上につながることで人材の定着及び離職防止を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)	(千円)
				2,509	における	95
	基金	国 (A)		(千円)	公民の別 (注1)	(千円)
				1,673		1,578
		都道府県 (B)		(千円)		うち受託事業等 (再掲)
計 (A+B)		(千円)	2,509	(注2)	(千円)	
その他 (C)		(千円)		1,578		
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (小項目) 15 イ. 外国人留学生への奨学金の給付等に係る支援事業						
事業名	【No. 25 (介護分)】 介護事業者の外国人留学生支援事業				【総事業費】 2,840 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県 (民間事業者へ補助)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護を必要とする方が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図る。						
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508 人 (令和元年度) → 39,493 人 (令和5年度)						
事業の内容	介護福祉士の資格取得を目指す外国人留学生を支援する就労予定先の介護事業者に対し、当該事業者が外国人留学生に支援する奨学金に係る費用の一部を助成する。						
アウトプット指標	介護事業者が外国人留学生に対して学費や生活費等を給付または貸与した場合に県が補助：15 人/年						
アウトカムとアウトプットの関連	留学生を受け入れる県内介護事業者を支援し、介護人材の新規参入促進につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2)
			都道府県 (B)			(千円)	
			計 (A+B)			(千円)	
			その他 (C)			(千円)	
		(千円)		1,893			
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 基盤構築 (小項目) 1. 介護人材確保対策連携強化事業 (協議会設置事業等)							
事業名	【No.26 (介護分)】 外国人介護人材対策協議会				【総事業費】 2,827 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県 (民間事業者へ委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度) → 39,493人 (令和5年度)							
事業の内容	外国人労働者の介護分野への新規参入促進を図るため、介護事業者、介護福祉士養成施設等による協議会を設け、地域医療介護総合確保基金をはじめとした外国人労働者受け入れのための支援策を検討する。							
アウトプット指標	協議会を開催し、報告書をまとめる。 ・協議会開催回数 3回/年							
アウトカムとアウトプットの関連	外国人労働者の介護分野への新規参入促進を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
				2,827		259		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)			(千円)		(千円)
その他 (C)		(千円)	1,626					
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (小項目) 12 イ. 多様な人材層に応じたマッチング機能強化事業							
事業名	【No.27 (介護分)】 福祉・介護人材マッチング支援事業				【総事業費】 27,437 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県 (岐阜県社会福祉協議会へ委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	福祉現場では、質の高い介護・福祉人材を安定的に確保することが急務となっているため、個々の求職者にふさわしい職場へのマッチングの支援を行う。また、中学校、高校における啓発を実施する。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度末) →39,493人 (令和5年度末)							
事業の内容	福祉人材総合支援センターにキャリア支援専門員を配置し、ハローワーク等での相談対応を行うとともに、福祉で求められる人材に関する理解促進と進学・就職支援を実施する。							
アウトプット指標	求人情報調査や就職支援の講習会の開催等により、福祉介護人材の安定的な確保を図る。 ・就職者数：200件/年 ・中学校、高校、大学、地域での啓発：40か所/年							
アウトカムとアウトプットの関連	個々の求職者にふさわしい職場を開拓し、マッチングの充足を図ることで、介護人材の確保を促進する。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)	(千円)				(千円)
			その他 (C)	(千円)				18,291
備考 (注3)								
次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和2年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 参入促進 (小項目) 12 イ. 多様な人材層に応じたマッチング機能強化事業								
事業名	【No. 28 (介護分)】 福祉の仕事就職フェア開催事業				【総事業費】 5,050 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県 (民間事業者へ委託)								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	高齢社会の進展に伴い介護・福祉人材の需要は高まっており、既存の人材の定着支援とともに、新たな人材確保対策を図ることは重要である。								
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度末) → 39,493人 (令和5年度末)								
事業の内容	介護・福祉の仕事に関する合同就職説明会を実施し、就職したい方への就業支援、興味のある方への周知啓発等を行う。								
アウトプット指標	福祉の仕事就職フェア参加者：2,000人								
アウトカムとアウトプットの関連	福祉事業者と就職希望者が面談する機会を設けることで、福祉介護人材の確保を促進する。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
				5,050		17			
		基金	国 (A)			(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2)	民	(千円)
						2,357		2,340	
			都道府県 (B)			(千円)		1,178	
計 (A+B)		(千円)	3,535						
その他 (C)		(千円)	1,515						
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和2年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (小項目) 4. 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業							
事業名	【No. 29 (介護分)】 福祉の仕事普及啓発事業				【総事業費】 3,630 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県 (民間事業者へ委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	高齢社会の進展に伴い、今後も介護・福祉人材の需要は高まっていくため、将来的な人材の確保につながる事業実施の必要性は高い。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度末) → 39,493人 (令和5年度末)							
事業の内容	小学生向け「福祉のおしごと新聞」及び日刊紙の関連企画記事に、福祉の職場で働く若手職員や学生へのインタビュー記事、県内優良事業所の紹介等、福祉の職場の魅力を伝える記事を掲載。							
アウトプット指標	小学生：年3回 (約11万人/回 対象) 一般向け新聞特集紙面：年3回 (約16万部)							
アウトカムとアウトプットの関連	将来に夢を持ち、進路を考え始める若年層に介護・福祉の仕事の魅力を伝えることで、進学や就職にあたって、介護・福祉の仕事を目指す人材を確保する。 また、保護者や、進路指導教諭等の学校関係者に、介護・福祉の仕事の魅力とやりがい伝える。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)	(千円)				(千円)
		その他 (C)	(千円)	2,420				
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和2年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (小項目) 30 ハ. 若手介護職員交流推進事業						
事業名	【No. 30 (介護分)】 福祉の仕事合同研修・交流会開催事業				【総事業費】 2,136 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県 (民間事業者へ委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	高齢社会の進展に伴い介護・福祉人材の需要は高まっており、新たに入職した方や若手職員の方の早期離職の防止と定着支援を図る取組みは重要である。						
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度末) → 39,493人 (令和5年度末)						
事業の内容	県内で採用された若手の介護・福祉職員を対象に合同研修・交流会を開催し、交流会や記念講演会を実施し、グループワークを主体とした研修会を実施する。						
アウトプット指標	100人の参加						
アウトカムとアウトプットの関連	若手の介護・福祉職員について、事業所の枠を越えた同期の絆を深めてもらい孤立化を防ぐとともに、仕事への意欲を高めてもらうことで、定着及び離職防止を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			計 (A+B)	(千円)			1,389
			その他 (C)	(千円)			
			2,136				
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和2年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 27 イ. 認知症高齢者等権利擁護人材育成事業						
事業名	【No. 31 (介護分)】 成年後見・福祉サービス利用支援センター設置支援 事業費補助金			【総事業費】 13,874 千円			
事業の対象となる 医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県社会福祉協議会へ補助						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護 ニーズ	県内認知症高齢者数は、平成24年の5万2千人から令和7年には約11万4千人に増加することが見込まれており、成年後見制度をはじめとする権利擁護に係る支援体制の整備が必要である。						
	アウトカム指標： ① 成年後見等申立件数 389件/年（平成28年度末）→：500件/年（令和4年度末） ② 成年後見制度利用促進のための中核機関設置 3市町村（令和元年度）→42市町村（令和4年度） ③ 成年後見制度利用促進計画策定 3市町村（令和元年度）→42市町村（令和4年度）						
事業の内容	「岐阜県成年後見・福祉サービス利用支援センター」を設置 ・権利擁護推進事業（本部事業） ①市民後見・法人後見を行う担い手、市町村職員に向けた資質向上研修 ②地域住民向け啓発セミナーの開催や福祉事業者等向け出前講座の実施 ③関連機関連携会議、権利擁護推進員会議、市町村社協による法人後見事業 促進会議開催						
アウトプット指標	法人後見を行う団体（社協、NPO等）の資質向上研修会 3回/年 成年後見制度の利用促進研修 1回/年 成年後見制度理解促進研修（福祉関係機関向け） 1回/年 市町村計画策定研修 1回/年 市民後見人研修 1回/年						
アウトカムとアウト プットの関連	社会福祉協議会が実施している日常生活自立支援事業の利用者等を成年後見制度に適正につなげることができるよう、成年後見事業に携わる人材の資質向上等を図り、地域連携ネットワークの構築を推進する。						
事業に要する費用 の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		13,874		民	(千円)
	基金	国 (A)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		都道府県 (B)		(千円)			
		計 (A+B)		(千円)			
		13,874	(千円)			(千円)	
その他 (C)		(千円)				9,249	
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 18 イ. 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業						
事業名	【No. 32 (介護分)】 多職種連携アセスメント研修事業				【総事業費】 1,500 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県 (岐阜県居宅介護支援事業協議会へ委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	多職種による適切な医療・介護サービスが供給できるよう在宅医療にかかる提供体制の構築						
	アウトカム指標：多職種連携に関する研修等に取り組む事業所数 (累計) 931 事業所 (令和3年度) →1,010 事業所 (令和4年度)						
事業の内容	医療介護職を含めた多職種による症例検討型研修会を開催する。						
アウトプット指標	在宅医療・介護に関わる多職種かつ多様な事業所の職員に対して、医療・介護両面からのアセスメントを取り入れたケアプランの作成やサービスの提供に対する理解を深めることにより、多職種協働による利用者に合わせた適切な医療・介護サービスの一体的な提供を行う体制を構築する。 ・参加事業者数：100 事業者 (令和4年度)						
アウトカムとアウトプットの関連	多職種の事業者を対象に研修会を行うことにより、多職種と連携してより利用者にあったサービスの提供ができる事業者の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			1,000
			計 (A+B)	(千円)			500
		その他 (C)		(千円)		1,500	1,000
		(千円)					
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 24 イ. 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業							
事業名	【No. 33 (介護分)】 認知症地域医療人材育成事業				【総事業費】 9,515 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県、岐阜県 (岐阜県医師会等へ委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	各医療職の認知症対応力を向上させることで、認知症の症状・身体合併症等の状態に応じた適切な医療サービスの提供体制構築を図る。							
	アウトカム指標：認知症治療病棟在院患者3か月未満退院率 13.6% (平成30年度(6月)) → 15% (令和4年度)							
事業の内容	認知症連携の中心となる認知症サポート医を養成するとともに、かかりつけ医、病院勤務の医療従事者、歯科医師、薬剤師及び看護職員への認知症対応力向上研修を実施する。							
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポート医数 (累計) 171人 (令和3年度末) → 191人 (令和4年度末) かかりつけ医認知症対応力向上研修受講者数 (累計) 956人 (平成3年度末) → 1,230人 (令和7年度末) 							
アウトカムとアウトプットの関連	かかりつけ医等による早期対応や認知症サポート医も構成員となっている認知症初期集中支援チームの活動により、認知症患者の症状悪化を遅らせることができ、認知症治療病棟在院患者の早期退院率の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	288	
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2)
			その他 (C)	(千円)				(千円)
					6,055			
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 24 イ. 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業								
事業名	【No. 34 (介護分)】 市町村認知症ケア人材養成事業			【総事業費】 449 千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	認知症を早期に発見し、適切な医療・介護等に繋げる初期の対応体制の構築と、認知症の人を地域で支えるための有機的な連携体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：認知症治療病棟在院患者3か月未満退院率 13.6% (平成30年度(6月)) → 15% (令和4年度)								
事業の内容	認知症初期集中支援チーム員と、認知症地域支援推進員の資質向上のための取組を実施する。								
アウトプット指標	<p>認知症の人ができる限り住み慣れた地域で暮らせるよう、県内市町村に配置、設置した認知症地域支援推進員および認知症初期集中支援チームの活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症地域支援推進員配置人数 144人 (令和3年4月) → 167人 (令和4年度) 認知症初期集中支援チームの活動実績のある市町村 29市町村 (令和3年4月) → 全市町村 (令和4年度) 								
アウトカムとアウトプットの関連	認知症初期集中支援チームの活動により、認知症患者の症状悪化を遅らせることができ、認知症新規入院患者の早期退院率の増加を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	449	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	299
		基金	国 (A)		(千円)			299	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
	都道府県 (B)		(千円)	150					
	計 (A+B)		(千円)	449					
	その他 (C)		(千円)						
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 24 イ. 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業								
事業名	【No. 35 (介護分)】 認知症サポート体制整備構築事業			【総事業費】 1,700 千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	岐阜県医師会へ補助								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	認知症ケアに携わる地域資源を最大限に活用し、認知症発症初期から状況に応じて、医療と介護が一体となった認知症の人への支援体制を構築する必要がある。								
	アウトカム指標：認知症治療病棟在院患者3か月未満退院率 13.6% (平成30年度(6月)) →15% (令和4年度)								
事業の内容	県内の認知症サポート体制構築会議の開催 地域において居宅等で生活する認知症の人を支えるため、認知症サポート医を中心とした多職種連携体制向上を目的とした会議の開催に対して助成する。								
アウトプット指標	多職種連携会議への参加人数 66人 (令和3年度) →120人 (令和4年度)								
アウトカムとアウトプットの関連	認知症サポート医を中心として、地域で認知症患者を支えるための体制が構築されることで、認知症治療病棟に在院する患者の早期退院が可能となる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)		
			都道府県 (B)	(千円)			民	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)	
			計 (A+B)	(千円)					1,133
			その他 (C)	(千円)					567
			1,700		1,133				
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 18 イ. 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業								
事業名	【No. 36 (介護分)】 強度行動障がい等支援職員養成事業				【総事業費】 6,187 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	(福) 岐阜県福祉事業団へ補助								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	障がい者の重度化・高齢化に伴い、親亡き後を見据えた支援体制の整備（地域生活支援拠点等）が進められている。強度行動障がいのある人への支援は、資源不足により支援体制の強化が喫緊の課題である。また、高齢障がい者支援は住まいの場の確保や高齢・障がいの特性を踏まえた支援を行うことができる人材の確保・養成が急務となっている。								
	アウトカム指標：専門職員による構造化（強度行動障がい低減の取組み）実績 1名（令和3年度）→1名（令和4年度）※令和2年度の取組みを継続								
事業の内容	強度行動障がいのある方や高齢障がい者の支援体制を強化するため、先進的な取組みを行っている国立のぞみの園（群馬県高崎市）へ県福祉事業団の職員を派遣する費用（人件費）の一部を補助する。								
アウトプット指標	・専門職員養成（研修派遣）延べ人数：2名（令和3年度）								
アウトカムとアウトプットの関連	高い専門性を有した職員が県内の施設に配置されることにより、他施設や在宅では処遇困難な強度行動障がいのある方を受け入れ、構造化（行動障がいの低減）を図る取組みを行うことが可能となる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
				6,187			0		
		基金	国 (A)			(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)			4,125
			計 (A+B)			(千円)			2,062
計 (A+B)		(千円)	6,187		うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)				
その他 (C)		(千円)	0						
備考 (注3)	次年度以降も継続を検討。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。。								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業									
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 18 イ. 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業									
事業名	【No. 37 (介護分)】 高齢障がい者のための障がい福祉・介護連携促進事業			【総事業費】 958 千円						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域 (令和4年度の連携推進会議は岐阜圏域・東濃圏域にて開催)									
事業の実施主体	岐阜県 (一般社団法人ぎふケアマネジメントネットワークへ委託)									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、障がい者の生活を地域全体で支える体制づくりとして地域生活支援拠点の整備が進められている。 高齢障がい者に対しては、障害福祉サービスと介護保険サービスが連携して切れ目のない支援を行う必要があるが、現状では両サービスの連携は十分でない。									
	アウトカム指標：地域生活支援拠点等を1つ以上整備した圏域数 16市町村 (令和2年度) → 31市町村 (令和4年度)									
事業の内容	障がい福祉・介護関係者の相互理解・連携を図るため、以下の内容を実施する。 ・障がい福祉関係者向け介護支援対応力向上研修 ・介護関係者向け障がい支援対応力向上研修 ・障がい福祉・介護関係者合同研修 (ケース検討) ・地域単位の連携推進会議 (地域の高齢障がい者支援体制整備に向けた検討)									
アウトプット指標	・対応力向上研修及び合同研修受講者数：500名 (令和4年度) (感染症対策のため変動の可能性あり) ・地域単位の連携推進会議開催数：2回 (令和4年度)									
アウトカムとアウトプットの関連	合同研修や会議を通じて支援者同士の相互理解を深めることにより、地域において高齢障がい者を支援する体制 (地域生活支援拠点等) の機能強化に繋がる。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	958	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	0	
		基金	国 (A)		(千円)			639	民	(千円)
	都道府県 (B)		(千円)	319	うち受託事業等 (再掲) (注2)		(千円)			
	計 (A+B)		(千円)	958			(千円)			
	その他 (C)		(千円)	0	(千円)		638			
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (小項目) 4. 地域における介護のしごと魅力発信事業							
事業名	【No. 38 (介護分)】 福祉人材確保・育成・定着推進事業				【総事業費】 2,200 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県 (一部民間事業者へ委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	高齢社会の進展に伴い、今後も介護・福祉人材の需要は高まっていくため、将来的な人材の確保につながる事業実施の必要性は高い。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度末) → 39,493人 (令和5年度末)							
事業の内容	福祉人材の確保・定着等を推進するため、県内の福祉事業所等の職員や有識者、福祉施設従事者、福祉系大学生、福祉系教員を構成員とした福祉のイメージアップ委員会を設置し、福祉現場の課題の洗い出しを行い施策へ反映させる。また、福祉の仕事の理解とイメージアップを図るための SNS を開設・運営する。							
アウトプット指標	SNS 投稿回数：96 回/年=12 ヶ月×8 回/月							
アウトカムとアウトプットの関連	将来に夢を持ち、進路を考え始める若年層に介護・福祉の仕事の魅力を伝えることで、進学や就職にあたって、介護・福祉の仕事を目指す人材を確保する。 また、保護者や、進路指導教諭等の学校関係者に、介護・福祉の仕事の魅力とやりがいを伝える。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
				2,200		427		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
						1,467		1,040
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		733	1,040					
計 (A+B)		(千円)						
		2,200						
その他 (C)		(千円)						
備考 (注3)								
次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (小項目) 37. 外国人介護人材受け入れ施設等環境整備事業						
事業名	【No. 39 (介護分)】 外国人介護人材日本語学習支援事業				【総事業費】 6,000 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県 (民間事業者へ補助)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護を必要とする方が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図る。						
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度) → 39,493人 (令和5年度)						
事業の内容	介護職種の外国人技能実習生及び介護分野における特定技能外国人の受け入れを行う介護事業者が行う日本語学習に係る経費に対する補助を行う。						
アウトプット指標	介護事業者が日本語学習を行った場合に補助：80人/年						
アウトカムとアウトプットの関連	介護職種の外国人技能実習生及び介護分野における特定技能外国人を受け入れる県内介護事業者を支援し、介護人材の新規参入促進につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		4,000	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)		2,000	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			計 (A+B)	(千円)		6,000	
		その他 (C)	(千円)				
備考 (注3)	4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (小項目) 38. 新型コロナウイルス流行下における介護サービス事業所等のサービス提供体制確保事業					
事業名	【No. 40 (介護分)】 高齢者施設感染対策人材確保支援事業			【総事業費】	355,076 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	岐阜県 (高齢者事業者団体に委託)					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	介護施設においては、新型コロナウイルス感染症の感染が疑われる症状の利用者や、陽性判定後であっても入所を続けざるを得ない利用者に対し、介護サービスの提供を継続する必要がある。そうした際には、職員も感染の疑いがある中で、サービス継続のための人材確保が重要な課題となる。そのため、各介護施設間で、介護職員等の人材を相互に派遣し、感染発生時の人材確保を支援する必要がある。					
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人 (令和元年度末) → 39,493人 (令和5年度末)					
事業の内容	介護施設において感染が発生した際、介護サービスを継続するための応援人材を施設間相互に確保できる事前の体制整備及び発生時の連絡調整を各業界団体に委託する。					
アウトプット指標	・ 応援人材派遣の人数：10人/年					
アウトカムとアウトプットの関連	施設内感染発生時に備えた人材を確保をすることで、現場の介護職員等の不安を軽減し、離職の防止を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)	公 (千円)
				355,076	における 公民の別 (注1)	236,717
		基金	国 (A)	(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			都道府県 (B)	(千円)		
			計 (A+B)	(千円)		
その他 (C)		(千円)				
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (小項目) 38. 新型コロナウイルス流行下における介護サービス事業所等のサービス提供体制確保事業					
事業名	【No. 41 (介護分)】 緊急時介護人材確保・職場環境復旧等支援事業費補助金			【総事業費】 38,300 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域					
事業の実施主体	岐阜県					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	介護サービスは、要介護高齢者等やその家族の日常生活の維持にとって必要不可欠なものであるため、新型コロナウイルスの感染等によりサービス提供に必要な職員が不足した場合でもサービスの継続が求められる。					
	アウトカム指標：各サービス介護事業所廃止数増加防止					
事業の内容	新型コロナウイルス感染症の発生による介護サービスの提供体制への影響をできる限り小さくするため、介護サービス事業者が行う事業に要する経費に対し、予算の範囲内で補助金を交付する。					
アウトプット指標	【補助の見通し】 <感染症発生事業所> 通所介護事業所 10 事業所/年、介護施設（特養・老健） 5 事業所/年、訪問介護事業所 10 事業所/年 <代替サービスを提供した事業所> 通所介護事業所 10 事業所/年 <感染症発生事業所の利用者受け入れや当該事業所に職員の派遣を行う事業所> 通所介護事業所 20 事業所/年					
アウトカムとアウトプットの関連	新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生した介護サービス事業者に対する補助をすることで要介護高齢者等に対するサービスの継続をすることが可能となる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)	公 (千円)
		基金	国 (A)	(千円)	における 公民の別 (注1)	民 (千円)
			都道府県 (B)	(千円)		うち受託事業等 (再掲)
			計 (A+B)	(千円)		(注2)
		その他 (C)	(千円)		(千円)	
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進に資する事業 (小項目) 6 ロ. 地域の支え合い・助け合い活動継続のための事務手続き等 支援事業						
事業名	【No. 42 (介護分)】 老人クラブ事務デジタル化普及促進事業			【総事業費】 479 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	岐阜県 (民間事業者へ補助)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護を必要とする方が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図る。						
	アウトカム指標：－						
事業の内容	県老人クラブ連合会が、単位老人クラブにおける会計経理、事業報告、補助金申請などの事務のサポートを行う「事務お助け隊」を希望する市町村老人クラブ連合会を通して派遣し、老人クラブ事務の効率化、簡便化を支援することとし、県から県老人クラブ連合会へ係る費用に対して補助を行う。						
アウトプット指標	事務お助け隊支援団体数：4 団体／年						
アウトカムとアウトプットの関連	事務お助け隊を派遣し、事務作業等の支援を行うことにより、老人クラブ活動を継続させる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A + B + C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A + B)	(千円)			(千円)
		その他 (C)	(千円)				
備考 (注3)	4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業									
	(大項目) 資質の向上 (小項目) 29 介護施設等における防災リーダー養成等支援事業									
事業名	【No. 43 (介護分)】 高齢者施設風水害対策強化事業			【総事業費】 1,943 千円						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域									
事業の実施主体	岐阜県									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	近年、集中豪雨や台風等による風水害が発生し、県内高齢者施設においても建物被害や入所者を避難させる事態が発生している。災害発生時に、高齢者施設の入所者が安全かつ安心して避難できるよう、各施設における防災力向上を目的とし、その支援事業を行う。									
	アウトカム指標：避難確保計画作成率 94.4% (R4.4.1時点)									
事業の内容	<p>① 高齢者施設職員向け研修会開催・動画配信事業 施設職員向けに、防災に係る基礎知識と避難の実行性を高めるためのタイムラインの必要性及びその作成のポイント等を学ぶ研修会を開催する。併せて研修会を補完する動画配信を行う予定。</p> <p>② 「げんさい未来塾」卒塾生による高齢者施設の伴走型支援事業 防災・減災センターが育成した「げんさい未来塾」卒塾生の指導のもと、実地により、施設職員とともに防災上の課題と対策を検討し、実効性のある避難確保計画に取り組む伴走型支援事業を行う。</p>									
アウトプット指標	事業の検証により、より実効性のある避難確保計画の作成支援を行う。									
アウトカムとアウトプットの関連	研修事業により実効性のある避難確保計画を実践することにより、施設における防災力向上を図る。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)			
				1,943			0			
		基金	国 (A)			(千円)	注1)	民	(千円)	
						1,295				1,295
			都道府県 (B)			(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2)
計 (A+B)		(千円)		(千円)						
1,943										
その他 (C)		(千円)								
		0								
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (小項目) 34 介護従事者の子育て支援のための施設内保育施設運営支援事業							
事業名	【No. 44 (介護分)】 介護事業所内保育施設運営費補助金				【総事業費】 42,689 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	民間事業者へ補助							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保が必要。介護職員の離職理由のうち、「結婚・妊娠・出産・育児のため」が上位に挙げられていることから、働きながら子育てのできる職場づくりを推進し、職員の離職防止を図る必要がある。							
	アウトカム指標：介護職員数の増加 31,508人（令和元年度末）→39,493人（令和5年度末）							
事業の内容	子育てをしながら働く介護職員の児童を保育する目的で設置されている介護事業所内保育施設の運営費に係る経費を補助する。							
アウトプット指標	補助施設数 17施設							
アウトカムとアウトプットの関連	介護施設内保育施設の運営費を助成し、介護職員の育児による離職防止及び出産後の再就業を促進することで、介護職員の確保と定着を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)			(千円)		(千円)
		その他 (C)		(千円)				
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。4月1日から実施できるよう、令和4年度に造成した基金以外の年度の基金を充当することがある。							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (小項目) 18. 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業 ハ 介護支援専門員資質向上事業							
事業名	【No.45 (介護分)】 介護専門員法定研修等事業費補助金 (新型コロナ分)			【総事業費】 4, 000 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	岐阜県福祉事業団、岐阜県居宅介護支援事業協議会							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護支援専門員は介護保険法に定められた専門職であり、介護保険サービスを支える重要な役割を担っていることから、新型コロナウイルス感染症の影響下であっても、資格取得・更新のための法定研修を開催する必要がある。							
	アウトカム指標：資格取得・更新に必要な法定研修が全て開催されるようにする。							
事業の内容	法定研修を開催するに当たり、新型コロナウイルス感染防止対策のために発生するかかり増し経費に補助する。							
アウトプット指標	各研修について、コロナ感染拡大防止のうえ完遂できるようにする。							
アウトカムとアウトプットの関連	新型コロナウイルス対策を十分に施したうえで、資格の取得・更新に必要な法定研修を確実に開催できるようにする。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		4, 000		2, 667		
		基金	国 (A)			(千円)	公民の別 (注1)	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			計 (A+B)			(千円)		
その他 (C)		(千円)						
備考 (注3)	次年度以降も継続予定。							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。